

三田尻鹽務局

平生出張所之部

## 三田尻鹽務局平生出張所ノ部

### 第一章 鹽田位置、方位及附近ノ地勢地形

#### (一) 平生町鹽田

(方位及位置) 平生町ノ西端ニ位シ南北兩部ニ分レテ鹽田ヲ成形ス周圍ハ殆ント蜿蜒連亘セル山脈ヲ以テ繞ラシ其北部ニアルモノハ八海川ノ下流ニ接シ北方ハ一面入海ニ沿フ其南方ニアルモノハ突出セル二條ノ岬ノ大部分ヲ占メ西南ハ水場港ニ望ミ遠ク阿多田島ト相對ス何レモ大字平生町ニ接近シ入海ノ頭部ヲ中央トシ殆ント相對ス

(地勢及地形) 平生鹽田ハ大井川ノ北岸ニ始マリ八海川ノ南岸ニ終ル入海ハ南北鹽田ノ中間ヲ貫キ西南ハ一般海岸ニ沿ヒ東北ハ村落及ヒ田圃ニ接ス周圍ハ一里餘ニシテ運輸上ニ於テハ四池八達ノ便アリ

(河川) 平生鹽田ハ南ニ大井川(源ヲ大野村ニ發シ水流約一里)ヲ控ヘ中央ニ大内川(源ヲ平生町ニ發シ水流約一里)又北方ニ八海川(源ヲ城南村及田布施村ニ發シ水流約三里)アリ其幅員ハ下流ニ於テ約三丁トス何レモ西流シテ入海ニ注ク

(山岳) 四面殆ント山脈ヲ以テ廻スモ稟高一千尺以上ニ達スルモノハ箕山及岩城山アルノミ

(沼池) 著シキモノナシ

#### (二) 曾根村鹽田

(方位及位置) 鹽田ハ全村ノ西北ニ位シ東南ハ人家田圃ヲ隔テ、山脈ヲ控ヘ西北ハ海岸ニ頻シテ遙ニ麻郷村ト相對ス

(地勢及地形) 平生平原ニ連亘シテ西南方ニ細長ク鹽田ハ殆ント西北方ノ海岸全部ヲ占メ東南ハ一面山脈ヲ控ユ

(山岳) 東南ハ悉ク連亘セル山脈ヲ以テ繞ラシ就中箕山ハ一千尺以上ニ達ス

(河川) 一二ノ小流アレトモ微々タルモノニシテ掲載スルニ足ラス

#### (三) 麻郷村鹽田

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第一章 鹽田位置方位及附近ノ地勢地形

(方位及位置) 全村ノ東南ニ位シ西北ハ田畑及人家ヲ隔テ、山脈ヲ控ヘ南方ハ一面海ニ類シ遙ニ曾根村ト相對ス

(地勢及地形) 中央ハ人家及田畑ニシテ海岸ハ平地鹽田アリ地形ハ圓形ニ近クシテ稍々西ニ突出ス

(山岳) 西北ハ一面山脈ヲ以テ蔽ハル然レトモ票高一千尺ニ達スルモノナシ

(河川、池沼森林) 別ニ舉クヘキモノナシ

(四) 麻里府村鹽田

(方位及位置) 本村ノ南方海上一渾半ニシテ馬島ト稱スル一小島(周圍約三里)アリ本島ノ東端ニ一ノ鹽田ヲ有ス西ハ山ヲ以テ蔽ハレ東南北ノ三方ハ海ニ面ス

(地勢及地形) 本島ハ全部山及丘陵ヲ以テ成形セラレ殆ント平坦ノ地ナク南北ニ細長キ一小島ナリ

(河川、池沼、森林) 舉クルニ足ルモノナシ

(五) 佐賀村鹽田

(方位及位置) 鹽田ハ全村ノ西北阿多田島ノ東方ニ位置シ西南北ノ三面ハ海ニ類シ遙ニ馬島及佐台島ト相對シ東ハ些々タル田圃ヲ隔テ、直ニ山脈ニ連ナル

(地勢及地形) 海岸ハ平坦ナルモ地形細長クシテ比較的平地少ナシ

(山岳、森林、池沼、河川) 著シキモノナシ

(六) 阿月村字積濱

(方位及位置) 阿月村ノ北部ニ位シ東ハ海ヲ隔テ、大島郡ト相對シ東南ハ水天彷彿トシテ伊豫地ヲ望ム西南北ノ三面ハ山ヲ以テ圍マレ北方ニ當レル山麓ニ全村竹ノ浦揚ケ濱アリ

(地勢) 鹽田ノ東北ニ當リテ小岬アリ阿月脊梁山脈ノ海岸ニ肉迫シテ之ヲ成形スルモノニシテ長崎山ニ終ル更ニ視線ヲ北ヨリ西ニ轉スルニ山巒鬱結シ西ハ極メテ僅カナル平地ヲ存スルモ北ハ鹽田ノ地敷ヲ出レハ直ニ山麓トナリテ一望人家數軒

眞ニ寂莫タリ南ハ些々タル二小岬ヲ隔テ、大座山ノ海ニ突出スルアリ

(地形) 鹽田ハ略ホ弓形ヲナシ附近ノ地形ハ三角形ニ近カシ

(河川) 鹽田ノ西ニ方リテ二川アリ北ニアルヲ宇積川(水流約三十丁)トシ南ニアルヲ跣川(水流二十丁)トス共ニ東流ス前者ハ鹽田ノ西方ニ來リテ南ニ屈曲シ殆ント鹽田ヲ半周シテ海ニ注ク

(七) 阿月村揚ケ濱

(方位及位置) 宇積濱ヨリ長崎山腹ヲ越ヘテ北ニ出ツレハ即チ阿月村揚濱眼トニアリ東ハ海ヲ隔テ、大島郡ニ對シ西及南ハ山ヲ以テ境シ北ハ阿月村落ヲ控ユ

(地勢) 阿月村人家ノ大部分ハ鹽田ノ北方ニ當リテ畧ホ海岸線ニ並行シテ帶狀ヲナシ北方伊保庄村ヨリ來レル山脈ハ人家ノ西部ヲ南走シ人家ノ中央ニ於テ殊ニ海岸ニ接近シ願成寺山ヲ起ス人家ノ北端ヨリ東北ニ當リテ一ノ小岬角突出シ角尖ノ西南人家ノ北方ニ信平山アリ鹽田ノ南方ナル長崎山ト相對ス鹽田附近ノ土地稍々平坦ルル部分ハ鹽田ノ西部及信平山ノ西部トス

(地形) 鹽田ノ地形ハ帶狀ヲナシ長崎山ノナセル岬角ト信平山ノ成セル岬角トハ人家ニ沿フテ畧ホ直線上ニ走レル海岸線ヲ底邊トシテ梯形狀ノ灣ヲ抱ク土地ノ平坦ナル部分ヲ求メテ劃線スルトキハ扁平ナル凹字形ヲナシ字ノ上部ハ方位ニ於テ西ニ當ル

(河川) 平地ハ山脈ニ沿フテ狹長ニ且ツ河流悉ク横谷ニ沿フテ流ル、ヲ以テ水流皆二十丁以下ノ小川ニ過キス依テ何名ヲ省畧ス

(八) 伊保庄村揚ケ濱

(方位及位置) 本村揚ケ濱ニハ煎熬場數九個アリ各濱皆海岸線ニ沿フテ並列スト雖モ御馬釜屋濱ト初田釜屋濱トノ如ク鹽田ノ間隔三四丁モアリテ其間ハ人家及田畑等ヲ以テ隔離スルモノアリテ東ハ海ニ面シ無人小島島島睫眉ノ間ニ位置ヲ占メ

海上三里ニ大島郡ノ横ノルアリテ長ク視界ヲ限ル東南ハ島嶼間隙ヲ透シテ雲煙模糊ノ裏ニ伊豫地ヲ望ム東北ニ當リテ笠佐島(大島郡所轄)アリ大島ノ瀬戸アリ瑟石山(柳井町)アリ西北、西、西南ノ三面ハ山ヲ以テ圍マレ而シテ全村ヨリ位置ヲ考フルトキハ鹽田ハ村ノ南部ニ位ス

(地勢) 北方ヨリ來レル山脈ハ一旦鹽田ノ西南ニ於テ海ニ迫リ西方ヲ南走シテ更ニ又西南ニ於テ海ニ望ム而シテ西方ニ走ル山脈ハ又海ニ二三ノ丘陵ヲ投射ス人家ハ鹽田ノ附近ニ或ハ散在シ或ハ並列スルモノ及各丘陵ノ麓ニ波線狀ヲナシテ並列スルモノアリ平地ノ面積ノ廣キコトハ阿月村竹浦濱附近ノモノ、比ニアラス

(地形) 海岸線ハ稍々直ニ北方山麓ニ沿フテ線ヲ劃スレハ波狀ヲナシ平地ノ形狀ハ鋸ニ似テ非ナルモノカ

(河川) 流水常ニ絶エサルモノヲ南部ヨリ列記スレハ下ノ如シ近長川(水流約二十丁)馬越川(水流約二十丁)中村川(流水約一里)

(九) 伊保庄村小田濱

(方位及位置) 伊保庄村ノ東北端ニ位シ東ハ海ヲ隔テ、大島郡本島笠佐島等ニ對シ西ハ山脈ヲ以テ蔽ハレ南ニハ海岸ニ沿フテ嚴島黒島ノ二半島アリ北ハ古開作川口ヲ左ニシ瑟石山ヲ右ニシテ柳井濱トノ間ニ海ヲ挟ム而シテ鹽田ノ全地敷東方ニ向テ海ニ突出シ東南北ノ三面海ニ瀕ス

(地勢) 西方山脈ノ間ニハ西南ニ偏セル平地ヲ抱キ人家ハ鹽田ノ西側ヲ南北ニ走レル道路ニ沿フテ並列スルモノト西方山麓ニ散在スルモノトアリ東北方ニ當レル瑟石山ハ殊ニ高ク聳ユ

(地形) 鹽田ノ地形ハ畧ホ矩形ヲナシ附近ノ平地ハ西南ニ連ナル

(河川) 鹽田ノ西南ニ當リテ二川アリ北ニアルヲ上濱川(水流約十五丁)トシ南ニアルヲ小木尾川(水流約十丁)トス

(十) 伊保庄村十四番濱

(方位及位置) 村ノ北端ニ位シ東ハ三四丁ニシテ海ニ達シ西ハ六、七丁ニシテ平生町ノ一部ニ隣ス南ハ山脈ヲ以テ限ラレ

東北ヨリ西北ニ渉ル一帯ノ地ハ總テ柳井町ニ屬ス

(地勢) 背面ナル山脈ハ鹽田ノ南部ヲカスメテ西南ヨリ東北ニ向テ海岸ニ迫リ更ニ南方ニ轉走セルヲ以テ鹽田ノ東方ニハ僅カニ平地ヲ存シ西方ハ狹長ナレトモ稍廣キモノヲ有ス東北ヨリ西北ハ川ヲ隔テ、柳井濱及古開作村ノ田圃ニ對ス

(地形) 鹽田ハ畧梯形ヲナシ附近ノ平地ハ河岸ト山麓トノ間ニ狹長ナル地形ヲナス

(河川) 堀川(水流約二里半)鹽田ノ前面ヲ東流シテ海ニ注ク河幅鹽田ノ附近ニ於テ約十間トス

(十一) 柳井町柳井濱

(方位及位置) 柳井町ノ東南廣瀨川ト堀川トノ海ニ注ク所ニ於テ兩川ノ挾ム地域ニ位置ヲ占メ東ハ海ヲ隔テ、大島郡ニ對シ西ハ小平野ヲ經テ新庄村トナリ南北ハ山脈ヲ以テ塞カル

(地勢) 玖珂郡ノ北方ヨリ來レル山脈ハ柳井町ノ東部ニ來リテ西方ニ轉シ更ニ西南ニ迂廻シテ新庄村ニ入り余田村及田布施村方面ニ至ル一ハ平生町ノ北部ヲ東方ニ走リ伊保庄村ノ北部ニ於テ南ニ折ル、山脈ハ堀川ニ沿フトコロニ於テ柳井町ノ南方ヲ塞ク北方山脈中稍々高キモノハ瑟石山金山比羅山及岩城山トス

鹽田及コレニ連續スル小平野ハ海水ノ滿潮面ヨリモ低ク一朝鹽田若クハ堀川ノ堤防破壊セラレトキハ一面海水ニ依リ浸サレト云フ人家ハ東北ヨリ西北ニ連ナリ西北ニ當リテ最モ稠密ス西南ニハ平生柳井兩町ニ屬スル一部ノ人家アリ西方ニハ小平野ヲ隔テ、新庄村人家アリ

(地形) 鹽田ノ地形ハ南ニ廣ク北ニ狹シ而シテ西方ノ境界線ハ殆ント直線ヲナスモ東方ハ外方ニ彎曲ス鹽田ノ西方ニ廣カレル平地ハ西南北三面山脈ヲ以テ圍マレ東方ニ口ヲ有シテ囊狀ヲナス

(河流) 鹽田ノ南方ヲ流ル、モノヲ堀川ト云ヒ(水流約二里餘)鹽田ノ北ヲ流ル、モノヲ廣瀨川(水流約一里半)トス河口ニ近ツキテ北方ヨリ流ル、姫田川(水流約一里)ト合ス

## 第二章 鹽業ノ沿革

當所管内ニ於ケル製鹽ノ起源ハ今ヲ去ル二百四十有餘年萬治ノ年代毛利家ニ於テ平生ニ入濱鹽田ヲ開作セシヲ創始トナス夫レヨリ元祿八年ニ至リ吉川家ニ於テ其領内新市堅ケ濱ニ築造シ降テ文政ノ末年毛利家ノ佐賀村ニ築造シタルヲ最終トナスモノ、如シ然レトモ舊記ノ存スルモノ殆ント之レナク考證ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ多ク口碑ニ傳フル所ヲ參酌シ鹽業沿革ノ梗概ヲ左ニ記述ス

### 平生 奥濱

現在二十六ヶ所

平生町一圓

平生開作ニ屬スルモノハ萬治二年后毛利家ノ築立ニシテ元十八個ナリシモ中途鹽業衰微シ或ハ洪水等ノタメ荒廢トナリタルモノ多ク現今其半數ヲ存スルノミ

築立年間ニ付舊記録ニ左ノ一説アリ何レカ真ナルカ明瞭ナラス始ク茲ニ疑ヲ存シ置ク

毛利就頼公新地開作企アリテ慶安ノ頃ヨリ寛文ニ至ルマテ堅ケ濱磯崎ヨリ玖珂島野島ノ内外マテ築立相成地方ノ在鹽濱ヲ廢シテ田畠トナシ沖方ハ播磨國ニ工夫セシ入潮濱ニ築立アル云々 (濃島大明神記)

堅ケ濱ニ屬スルモノハ元祿八年吉川家ニ於テ工ヲ起セリ當時赤穂ノ浪士十數名來リテ工事ヲ助ケ同十七年ニ成効セシト云フ故ニ總テノ構造ヲ播磨國赤穂ニ模倣セシモノ、如シ其築造セシ鹽田ハ十七個ニシテ今尙其數ヲ現存ス

玖珂郡誌ニ左ノ記事アリ參考トシテ茲ニ付記ス

堅ケ濱ハ元祿ノ始ヨリ御普請メクミ有之同年成就ス鹽田支配之由柳井代官手台兼候ニ付元祿十一年正月新規ニ鹽濱都合人三須三右衛門手子被仰付被差出候也元祿十七年十一月三日成就云々

### 平生 沖濱

現在二十二ヶ所

佐賀村  
麻郷村

麻里府村  
曾根村

平生沖濱ニ屬スルモノハ其築立ノ年代ヲ詳ニスルコト能ハサルモ松井八郎右衛門大島吉十郎ナルモノ、舊記録ニヨレハ寛延

元年ヨリ天明六年マテノ間ニ於テ數回ニ築造シ其最終ハ文化年間ニアルモノ、如シ其后鹽業衰頽シ或ハ災害ノタメ地目ヲ變換シタルモノ十三個ニシテ今現存スルモノ三十二ナリ

柳井濱

現在十九ヶ所

柳井町 伊保庄村  
阿月村

玖珂郡誌ニヨレハ文化辰年岩國藩主ニ於テ柳井中開作沖ニ鹽濱築立ノ企アリ同己年ニ成就ストアリ又伊保庄村小田濱ハ天保元年松崎市郎右衛門ナルモノ、起工ニシテ同四年成効セリ阿月村宇積濱ニアリテハ今ヲ去ル百七十年前元文元年ニ領主浦氏ノ築造ニ係ルモ中途災害ノタメ廢絶トナリ降テ天保二年領主カ再ヒ築造セシト云フ

右ノ外柳井村字宮本ニ鹽田アリシモ明治三十三年ノ海嘯ノタメ荒地トナリ免租年期中ニ屬スルモノ九町八段八畝餘歩アルモ到底復舊ノ見込ナシ

舊藩時代ニ於テハ鹽業者ニ對シ專ラ保護獎勵ヲ加ヘタルモノ、如シ則チ毛利家ニ於テハ各濱方ヘ札銀五百匁宛(一兩ハ札銀七十五匁)一ヶ年ノ補助費トシテ前年末ニ貸下翌年九、十、十一ノ三ヶ月ニ相當利子ヲ付シ返納セシム又吉川家ニ於テハ毎年米穀小濱へ四俵 大濱へ六俵貸下タルノ跡アリ尙堅ケ濱ニ對シテハ大ニ販賣上ニ獎勵ヲ與ヘ榭屋長兵衛ナルモノヲシテ北國北海道地方ヘ賣捌カシム故ニ當時六百石乃至千石積ノ和船四十艘内外ヲ所有シ專ラ同地方ニ輸送販賣セシヲ以テ一時名聲ヲ博シ平生沖奥兩濱製鹽ヲ通シテ堅ケ濱製鹽ト唱フルニ至レリ

元來當地方ノ鹽田操作法ノ如キハ甚タ幼稚ニシテ鹽田兩地盤日持ニナシタリシカ中途鹽業大ニ衰ヘ不振ノ折柄彼ノ三田尻田中藤吉ナルモノノカ輓回策ヲ講シ各地ニ遊說セシ結果遂ニ當地方ニ於テモ日持ヲ換持トスルノ規定トナシ爲メニ冗費ヲ省キ鹽業振起スルニ至レリト云フ此時ニ當リ日本鹽業者大集會ナルモノ起リ年々備前瑜珈安藝嚴島ノ兩所ニ於テ開會本郡室積村ニ於テモ又年々春秋ノ兩季各鹽業者開會シ年々ノ始業終業ノ定日其他斯業ニ關スル事項ヲ研究シ從テ換持法盛ニ行ハレシカ弘化ノ初年鹽業大ニ衰微シ爲メニ鹽價非常ニ下落ス玆ニ於テ又三田尻ヨリ仕組持ノ方法ヲ協議シ來リ終ニ弘化四年三田尻六ヶ所ハ濱ノ大小ヲ問ハス三ヶ一持法ニ其他ノ各所ハ大濱三ヶ一小濱三十七臺持ノ規定トナリ當地方ハ四十臺持ノコトニ議決

シ其結果良好ナリシカ嘉永四年ニ至リ三ヶ一持法大ニ濫レ同六年製鹽石數非常ノ多額ニ上リ鹽價又大ニ下落セリ因之同年十二月朔日ヨリ三田尻ニ於テ各現業者五日間集會シ其決議ノ末一鹽田沼井臺百十五以上三ヶ一持白十四臺以下ノ小濱ハ三十八臺持ニテ三ヶ年確守ノコト、ナリシカ安政七年降雨繁クシテ製鹽少ク萬延元年ニ至リ又換持法ニ變シ一兩年繼續シ又三ヶ一持法ニ改メタルモ近來ニ至リテハ其操作法甚タ區々トナレリ

### 第三章 製鹽方法

#### 甲 鹹水採收

##### 一 鹽田ノ種類及面積

平生町字湊ノ内第一番地田福屋濱

一 鹽田(入濱)面積 一町六段九畝二步

内溝渠面積 一反八畝二十三步

外釜屋倉庫納屋敷地等 七畝 七步

二 堤防ノ面積、高低及築造材料 元來鹽田ハ地盤非常ニ低クシテ滿潮ニ際シテハ水面ヨリ低キコト數尺ナリトス堤防ハ

樋ニヨリテ適宜ニ潮水ヲ誘導シ且ツ風濤ヲ防クノ目的ニシテ其高低モ亦適宜ナリトス長サハ鹽田面積ノ廣狹ニヨリテ一定

セス從テ其面積モ不同ナリトス其幅ハ二間半ヲ普通トス海ニ面スル所ハ石垣ニシテ或ハ堅牢ヲ要スル箇所ハ二重石垣ヲ築

クコトアリ石垣ノ後ハ「グリ」ニシテ地質土砂性ナルトキハ「グリ」ノ後ニ粘土ヲ入レ水波ニ堪ヘシム鹽田ニ面スル所ハ芝草

ナリトス

三 鹽田内溝渠ノ面積 鹽田内溝渠ヲ大別シテ三トス大溝小溝及前溝之レナリ其位置ハ第三十一圖ノ如ク其長サハ鹽田面

ノ都合ニヨリ一定セス幅及深左ノ如シ

大溝 幅四尺深一尺五寸 小溝 幅三尺深一尺五寸 前溝 幅四尺乃至五尺深二尺以上

大溝ノ中心線ヨリ小溝ノ中心線マテノ距離ハ普通七間トス第三十一圖ノ調査ニ依レハ大溝ノ數ハ此合計面積一段十二歩小溝ノ數七此合計面積六畝七歩前溝ノ數一此面積二畝四歩總計溝渠面積一段八畝二十三歩ナリトス

#### 四

撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、個數、大小、高低、配置施設 當管内ノ鹽田ハ悉ク沼井式ニシテ沼井

ノ構造ハ一臺貳箱ヨリ成ル方言之ヲめをど沼井ト云フ配置ノ都合上一臺壹箱ナルコトアリ之ヲこけ沼井ト云フ箱ノ面積ハ縱四尺八寸横一丈深サ一尺トス一箱ニ付一個ノ鹹水收受装置アリ之ヲ前壺ト稱シ沼井前面ノ中央ニ位シ縱二尺横一尺五寸ハ箱中ニ一個ノ壺ヲ設ク沼井ノ個數ハ鹽田面積ノ都合ニ依リ多少ノ例外ナキニ非ラスト雖モ七間、八間即チ五十六坪ニ對シ一個ヲ配置ス(圖面參觀)今沼井内部ノ構造ニ付詳説スレハ左ノ如シ

(イ) 沼井ヲ作ルニハ先ツ赤土四分粘土六分ノ混合土ヲ以テ地盤ヲ打固メ縱六尺横一丈高五寸ノ根底ヲ作ル

(ロ) 右根底ノ中央部ハ高六寸五分ニシテ左右ニ傾斜ス

是ヨリ以下ハ便宜上此中央部ヨリ二分シタルモノ即チ一箱ノ構造ニ付説明スヘシ

(ハ) 沼井ノ根底ハ縱六尺横一丈ナルカ此根底ノ上ニ縱四尺八寸横一丈ノ沼井ヲ作ル目的ニシテ一個ノ箱ニ付テ云ハハ縱四尺八寸横五尺トナル今同シ土ヲ以テ此根底ノ上ニ縱四尺八寸横五尺厚二寸高一寸七分ノ縁ヲ作ル

(ニ) 此上ニ一寸五分角長一尺五寸ノ木七本ヲ置ク

(ホ) 此木ノ上ニ(六本)ト稱シ竹八本ヲ置ク(地方ニ依リ竹六本ヲ置ク所アリ依テ此名アリ)

(ヘ) 「六本」ノ上ニ竹簀ヲ置ク

(ト) 此上ニ菰ヲ蔽フ

四側ハ板ヲ以テ圍井鹹水ハ前壺ニ流出ス前壺ハ桶又ハ粘土ニテ作レリ

洗砂ニ際シ盛砂防穿用具トシテ當管内ニ於テハ藁ニテ作レルあてこト稱スルモノヲ用ヒ此上ニ海水若クハ後潮ヲ注加ス

五 鹹砂貯藏裝置、構造、大小、面積及鹹砂ヨリ鹹水ヲ採收スル方法 該當記事ナシ

六 鹹水輸送裝置ノ構造、面積及輸送ノ方法 鹹水輸送裝置ハ頗ル單純ナルモノニシテ沼井中ニテ濾過セラレタル鹹水ハ

檐ヒ桶ヲ以テ鹹水輸送裝置(方言わんこう)ニ昂上セラレ(あんこう)ヨリ地盤ニ埋没セル竹管ヲ通シテ鹹水貯藏庫ニ輸送セラル (圖面參觀)

七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方法 採鹹用器具ノ名稱種類員數効用及使用方法等

左表ノ如シ(其構造、大小、形狀等ハ圖面參觀)

名	稱	員	數	摘	要
ふ	り	鍬	五	戽砂用	
ぬ	る	ほり	五	沼井ヲ堀ルニ用ユ	
い	れ	鍬	九	盛砂用	
よ	せ	鍬	六	集砂用	
か	け	いた	三	壓砂用	
も	ん	だれ	五	後潮及鹹水汲取用	
も	ん	だれ	六	小竹ヲ削ルニ用ユ	
擔		桶	五	鹹水輸送用	
く	い	が	五	爬砂用	
を	う	が	五	修盤用	
は	ま	び	六	爬砂用	
ぬ	る	なら	一	洗砂中ニ於ケル沼井内ヲ均坦スルニ用ユ	
ぬ	る	なら	二	鹹砂ヲ沼井ニ入ル、ニ用ユ將來廢止ノ見込	
す	り	ぐ	五	土ヲ碎クニ用ユ	
あ	ん	こ	二	鹹水輸送用	

みづぐるま	海水排出用
うち柄杓	海水撒布用

八 採鹹用器具新調費及保存期限

名	稱	單	價	保存期限	名	稱	單	價	保存期限
ふり	鍬	〇、三七〇	六	ケ	とうがなこ		一、二〇〇	三	ケ
ぬいほり	鍬	〇、三五〇	四	ケ	はまびき		〇、三三〇	一	ケ
いれ	鍬	〇、七二〇	全	ケ	ぬいならし		〇、一二〇	六	ケ
よせ	鍬	〇、二七〇	三	ケ	もつこう <small>(使用セサ ル積多シ)</small>		〇、二〇〇	四	ケ
かけ	杓	一、〇〇〇	二	ケ	すり		〇、二六〇	一	ケ
もんだれ	柄杓	〇、一七〇	一	ケ	あんこ		二五、〇〇〇	十	ケ
鎌		〇、一〇〇	全	ケ	みづぐるま		五、五〇〇	三	ケ
擔	桶	一、〇〇〇	二	ケ	うち柄杓		〇、二七〇	一	ケ
く		一、二〇〇	三	ケ					年

九 鹹水貯藏装置ノ構造、大小、形状及面積 鹹水貯藏装置即チ鹹水貯藏庫ハ方言之ヲだいつぼト云ヒ屋根ハ大抵葺膏ニ

シテ側壁ナシ其大小及面積ハ濱毎ニ差アリテ一定セス圖ニ示ス所ハ間口五間半奥行九間四尺ノ鹹水貯藏庫ニ構ニシテ同一形状ヲナセリ(當管内ニ於テハ一鹽田ニ付貯藏庫ニ構又ハ三構アルヲ普通トス)其ノ内面ニ鹹水ヲ貯藏スル池狀ノ装置アリ赤十四分粘十六分ヲ混和セル塗料ヲ以テ全体ヲ塗り鹹水ノ貯藏ニ堪ヘシム其面積ハ縦九間三尺横五間二尺深四尺一寸ナルトモ側面傾斜シ梯形ヲナセルヲ以テ其容量ハ一千七十一石餘トナル

昂輪装置ニヨリテ昂上セラレタル鹹水ハ鹽田地盤内ニ埋設セル竹管ヲ通シテ此貯藏庫ニ移輸セラル、モノトス而シテ釜屋ニ遠キ貯藏庫ノ鹹水ハ釜屋ニ近キ貯藏庫ニ竹管ヲ以テ流集スルノ装置トナリ釜屋ニ近キ貯藏庫ヨリ又竹管ヲ以テ鹹水ヲ釜

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第三章 製鹽方法

屋ニ輸送ス

十 鹽田地盤ノ構造及性質 地盤ハ水準面ニシテ作成盤ナリトス天然ノ砂層ヲ石炭殻又ハ土砂ヲ以テ均坦シ其ニ八寸ノ敷砂ヲナス此砂ハ河口ノ荒砂ニシテ此上ニ約一尺ノ撒砂ノ原料ト全一ノ砂ヲ敷キ一ツノ層ヲナサシム凡テ地盤ノ厚サハ各鹽田ニ就キ少差アレトモ此地層ト敷砂層トノ厚サハ常ニ正比例ヲナセリ修盤ハ毎年一回春季ニ於テ之ヲ行フ之ヲ春仕入ト云フ溝縁ニハ切石及羊齒等ヲ用ユルコトナシ

十一 撒砂(鹹砂)ノ種類、性質 撒砂ノ原料タル砂即チ原砂ハ外給ニシテ單給ナリトス其給源地ハ平生及曾根ニ於テハ馬島又ハ別府(熊毛郡麻里府村)ノ沖ノ海底ノ砂ヲ用ヒ柳井津ニ於テハ岩國伊保庄ノ沖ノ海底ノ砂ヲ用ユ其補給手續ハ年々所要量ヲ購買シ冬期之ヲ堤防上ニ堆積シ置キ修盤ノ際鹽田内ニ撒布スト云フ撒砂ハ原砂ト粘土トノ混合物ニシテ其ノ混合ノ割合ハ稍乾燥セル撒砂ノ一塊ヲ取り之ヲ蹴ルトキハ半ハ碎ケテ細微ナル土砂トナリ半ハ土塊トナリテ存スル位ヲ良シトスト云フ砂多キニ過ルトキハ鹹水苦味多ク粘土多キニ失スルトキハ鹹水ノ濾出甚タ遲緩ナリト云フ

十二 撒砂(鹹砂)撒布量及替砂ノ數 撒砂ノ一坪當撒布容量ハ普通一斗八升トス尙ホ季節ニ依リテ詳説スレハ春夏ノ候ハ氣温高キヲ以テ一斗八升乃至二斗トシ秋冬ニ至レハ一斗六升乃至一斗八升ニ減セシムト云フ其重量ハ日ニヨリ晴雨乾燥ノ差アリテ概論スヘカラスト雖モ晴天ノ際一升ノ撒砂ヲ取リテ秤量スルニ三斤(四百八十匁)ニシテ之ヲ乾燥スレハ容量減シテ八合トナリ二斤半(四百匁)トナレリ替砂ノ數ハ三トシ一替ハ沼井中ニアリ(盛砂)一替ハ沼井ノ側ニアリ(骸砂)一替ハ鹽田面ニ撒布セリ(戻砂)

十三 撒砂乾燥ノ時間 當管内ノ濱種ヲ分チテ二トス二日干式及三日干式是也二日干式ヲ「カイモチ」ト云ヒ三日干式ヲ「サンガイチ」ト云フ撒砂乾燥ノ時間ハ二日干式ニ在リテハ二晝夜三日干式ニ在リテハ三晝夜トシ季節ニ依リ長短ナシ

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水量(鹹水採收用)もんだれ採收用トニ依リ各別ノ容量)及鹹水又ハもんだれ採收量 沼井一臺ニ注入スル海水量ハ撒砂乾燥ノ程度ニヨリ日々差アリテ一定セスト雖モ擔桶二荷乃至四荷ノ範

圍内トス擔桶一荷ノ容量ハ大抵三斗五升平均トス而シテ之ヨリ採收スル鹹水ノ量ハ五斗乃至七斗ナリト云フ後潮採收ノ爲メ注入スル海水量ハ全桶二荷又ハ三荷ノ範圍内ニシテ後潮五斗乃至七斗ヲ得ヘシト云フ

### 十五 海水、鹹水及もんだれノ性質

#### (イ) 海水

(比重) 海水ノ濃度ハ畧一定セリト雖モ四季氣候ノ差異潮流ノ關係降雨ノ多少海灣ノ地形ニ依リ些少ノ差異アルハ論ヲ待タサルモ要スルニ母氏比重計三度内外ヲ上下スルモノ、如シ

(温度) 海水ノ温度モ亦氣候其他ノ關係ニヨリ多少ノ差異アレトモ十月中旬之ヲ檢スルニ攝氏二十二度乃至二十四度ヲ表示セリ

(化學的成分) 海水ノ化學的成分ヲ其含有量多量ノモノヨリ順次列擧スレハ次ニ示スカ如シ

水分鹽化曹達、鹽化苦土、硫酸苦土、硫酸石灰、鹽化加里、臭化曹達、少量ノ鐵、炭酸鹽類ヲ含有ス海水百分中鹽類ノ含有量平均三、五ヲ有ス

#### (ロ) 鹹水

(比重) 鹹水ノ比重ハ氣候ノ關係最モ著シキ影響ヲ及ホシ盛夏ノ候ハ其比重大度ナレトモ冬季ニ際シテ甚シク低減ス降雨モ亦大ニ比重低減ノ大原因トナリ本年ノ如キ降雨量多キ歲ハ隨テ比重ノ低降ヲ來スモノニシテ盛夏ノ候ニ於テハ平年母氏二十度ヲ示スヘキ鹹水モ僅ニ十六七度ヲ示スニ過キス十月中ニ於ケル當所管内ノ比重ヲ計ルニ母氏十四度乃至十六度ノ間ニ在リ

(温度) 普通鹹水貯藏庫ニ貯藏セル鹹水ノ温度ハ日光ヲ遮斷シテ貯藏セルカ故ニ海水ニ比シ概シテ低温ニシテ攝氏十九度乃至二十一度ヲ示セリ

(化學的成分) 鹹水ノ化學的成分ハ海水ト殆ント同一ノ成分ニシテ只鹽類含有量多キ而已

(ハ) 後 潮 (藻垂)

(比重) もんだれノ比重ハ各濱毎ニ一定セサル而已ナラス譬へ一濱ニ於ケルモノト雖モ各沼井毎ニ多少ノ差異アルヲ免レス如何トナレハ沼井中ニテ鹹水ヲ濾出スル時間ノ遲速季節トノ關係、鹹衣溶解ノ良否洗砂海水ノ温度等ニ依リ比重ノ高低ヲ來スカ爲メナリ十月中旬母氏比重計ニテ計ルニ五度乃至九度ノ間ヲ上下スルモノ、如シ

(温度) 温度モ亦氣候其他ノ關係ニヨリテ差異アレトモ十月中旬攝氏二十度乃至二十三度トス (化學的成分) もんだれノ化學的成分ハ各鹽類ノ含有量鹹水ト海水トノ中間ニ位シ鹽化曹達、鹽化苦土、硫酸苦土、硫酸石灰、鹽化加里水分等ナリ

十六 海水引入、排出(水閘)海水汲揚装置及汲揚方法 海水引入ノタメ普通堤防ノ便利ナル箇所ニ樋門ヲ設ク排水モ亦全

一樋門ニ依リテ行ハル普通水管又ハ土管ヲ用ヒ栓ハ粘土及藁ヲ以テ製シ粘土ヲ固メ藁ヲ以テ蔽ヒタルモノナリ排出ノ際ハふみぐるまト稱スル車ヲ用ヒ車ノ廻轉ニヨリテ排水スルコトアリ(圖面參觀)

十七 海水貯溜池ノ有無、大小、深淺及面積 該當記事ナシ

十八 鹽田一戸前又ハ一定段別(二町五段步)ノ一ヶ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收步合 鹽田一戸前ノ平均鹹水採收量ハ六千石ニシテ月別鹹水採收步合等左表ノ如シ

月別鹹水採收步合表

月 別	鹹水採收量	步	合	平均比重	月 別	鹹水採收量	步	合	平均比重
(陰曆)正月	〇石				八月	七一〇石		〇、一一八	(母氏) 一五度
二月	五四五		〇、〇九一	(母氏) 一四度	九月	五七〇		〇、〇九五	一五
三月	四六五		〇、〇七八	一五	十月	一八〇		〇、〇三〇	一三
四月	六九〇		〇、一一五	一五	十一月	一四〇		〇、〇二三	一二

五	月	四五〇	〇、〇七五	一四	十二月	〇	一、〇〇〇
六	月	一、一四〇	〇、一九〇	一七	計	六、〇〇〇	
七	月	一、一一〇	〇、二八五	一七			

十九 鹽田一戸前又ハ一定段別ノ採鹹ニ要スル人夫ノ種類名稱、員數及賃錢 採鹹ニ要スル人夫ノ種類及名稱左ノ如シ

しようやハ濱子ノ長ニシテ採鹹ニ關スル事務ヲ掌理シ濱子ヲ指導監督ス  
 じよーわさハしようやノ次班ニ位シ包裝ニ關スル事務ヲ擔任ス但シしようや及他ノ濱子ト共ニ採鹹ノ操作ヲナスコト論ヲ待タス

さんばんハ諸道具ノ整理よせ、ぬゐみ雇入ニ關スル事務ヲ擔任ス但シしようや及他ノ濱子ト共ニ採鹹ノ操作ヲナスコト論ヲ待タス以下かしきニ至ルマテ但シ書皆全シ  
 すけみづハ石炭灰ヲ捨ツルヲ職トス  
 かしきハ炊事ヲ擔當ス  
 よせハ大抵婦人ニシテ集砂ヲ專務トス  
 ぬゐみハ盛砂後均坦踏壓ノ事ヲ司トル  
 其勞銀等ハ左表ノ如シ

人夫別	人員	月給	使用月數	年給	食費	給料及食費合計年額	備考
しよーや	一	一〇、五〇〇	一	一一五、五〇〇	三二、三九六	一四六、八九六	使用數十一月ハ年末始ノ際一ヶ月休業スルヲ見積リシニ依ル
じよーわさ	一	九、五〇〇	一	一〇四、五〇〇	三二、三九六	一三五、八九六	食費ハ一日五才延五回給與一分
さんばん	一	九、二〇〇	一	一〇一、二〇〇	三二、三九六	一三三、五九六	五才米一才延三〇厘トシテ
すけみづ	一	八、九〇〇	一	九七、九〇〇	三二、三九六	一二九、二九六	日七合二勺五分〇厘トシテ

かしき	小計	人夫別人員	一人當日給	一人當使日數	一人當年給	食費	延人員年給	備考
一	五	八、六〇〇	四六、七〇〇	一一	九四、六〇〇	三一、三九六	一二五、九九六	
				五五	五一三、七〇〇	一五六、九八〇	六七〇、六八〇	
								一人當使用日數百三十日ハ平年持濱百三十日ト見積リシニ依ル
よせ	五八	〇、五〇	一三〇	六、五〇〇	〇、	三二、五〇〇	三九、〇〇〇	
ぬるふみ	三	一、〇〇	一三〇	一三、〇〇〇	〇、	七一、五〇〇	七四二、一八〇	
小計	八							
合計	一三							

但シ表中すけみづハ二町以上ノ反別ヲ有スル鹽田ニ非サレハ使用セス

二十 鹹水採收時季及採鹹量ト風位トノ關係 鹹水採收時季ハ從來三月ヨリ十一月迄(陰曆二月ヨリ十月迄)ナリシカ近年

ハ十二月迄(陰曆十一月)之ヲ行フニ至レリ風位ト季節トノ關係ハ

春季 西風 夏季 南西風 秋季 北風 冬季 北西風

吹クコト多シ北風ハ最モ採鹹ニ適シ東及南風ハ最モ忌ム所ナリ然レトモ採鹹上最好時季ハ夏季ニシテ日光強ク撒砂乾燥ニ便ナリトス春季及秋季之ニ亞キ冬季ニ至リテハ採鹹量僅少ナリト云フ

二十一 一ケ年間ノ採鹹平均日數 一ケ年間ノ採鹹平均日數等左表ノ如シ

濱別	雨量多キ年	雨量少キ年	年平均
持濱	一〇〇日	一三〇日	一三〇日
準備	五〇	三〇	四〇

二十二 一ケ年間ノ平均鹹水採收量

鹽田別	一ケ年間平均鹹水採收量	備考

上	中	下	平
田	田	田	均
六、五〇〇 <sup>百</sup>	六、〇〇〇	五、五〇〇	六、〇〇〇
段別一町五段歩トシテ調査ス	全	全	全

二十三

準備濱其他採鹹ニ關スル操作ノ順序及方法

雨後ニ對スル準備操作ハ午前三四時頃開始シ午後四五時頃終了スル

モノニシテ先ツくいかなこニテ縦爬一回次ニはまびきニテ横爬一回次ニちがいびきト稱シはまびきニテ斜爬ヲナシ更ニこなばへト稱シはまびきニテ小斜(小斜大斜等ノ語ハ皆二十八年四月技術講習會ニテ修得シタル用語ヲ以テセリ)ヲナシ再ヒはまびきニテ一回ノ縦爬ヲ行ヒタル上かけいたヲ以テ砂ヲ壓シうちびしやくヲ以テ海水ヲ撒布ス(以上雨後ニ對スル準備操作ヲ方言ニテをこしはまト稱ス)

持濱(方言もちめ)ハ普通替持ニシテ操作ハ午前四時頃ニ始マル先ツ沼井堀鍬ヲ用ヒテ沼井ヲ堀リ骸砂ヲ沼井ノ肩ニ移ス此作業ハ午前五時頃終了シ六時ヨリ七時頃迄はまびきヲ以テ二回ノ爬砂ヲ行ヒ(此作業ヲ方言ニテわさのあさぐわト稱ス)十時ヨリ十一時マテニかけいたヲ以テ砂ヲ壓シ更ニはまびきニテ一回ノ爬砂ヲ行フ(方言なかくわ)正午過ヨリぬいふみ及濱子いれくわヲ以テ集砂ノ區域ヲ劃定シよせ、よせくわニテ集砂ヲナシ濱子及ぬいふみ、いれくわニテ盛砂ヲ行ヒぬいふみ、ふりくわヲ以テ沼井中ヲ均坦踏壓シよせハ後潮ヲ汲ミ揚ケテ沼井中ニ注入シよせノ長(方言よせがしら)ぬいならしくわヲ以テ沼井中ヲ均坦シさんばん、すけみづ交々擔桶ニテ溝中ノ海水ヲ沼井ニ注加ス此時ニ當リテしよーやハしやくまわりト稱シ柄杓ヲ以テ鹹水濾出量ヲ均一ナラシムル爲メ各沼井ヲ巡視ス若シ沼井中ニ海水注加セシ量多キニ失スルトキハ之ヲ汲ミ捨テ不足ナルトキハ不足量ヲ注加ス是ヨリ先キ盛砂後骸砂(方言かぢさきどろ)ヲふりくわニテ鹽田面ニ撒布シはまびきニテ一回ノ縦爬ヲナシかけいたニテ壓砂シうちびしやくヲ以テ海水ヲ撒布ス(方言ニテしまいはまト云フ)持濱ノ操作ハ以上ノ作業ヲ遂ケ午後五時終了ス

準備濱操作ハあさのおさくわノ後ニはまひきニテ三回ノ爬砂ヲ行ヒかけいたニテ壓砂シ海水ヲ撒布スルヲ以テ終了ス俗ニ此操作ヲさるしト稱ス

## 二十四 鹹水採收ニ關スル其他ノ事項 該當記事ナシ

### 乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 釜屋ノ構造大小廣狹及面積換氣構造等ハ平面圖及外觀圖ノ如ク三面側壁アリテ一面之ヲ有セス建物ノ平面形狀ハ普通方形ニシテ五間四方トス但シ別圖ハ最モ廣キモノヲ取りタルモノニシテ五間半四方ナレトモ寧ロ例外ニ屬ス

二 釜及竈ノ種類構造、大小、其製造原料及釜ノ深淺 結晶釜ハ皆角釜ニシテ切石釜普通ニ行ハル鐵釜ハ近時増加スルノ傾向アレトモ目下少數ナリトス温メ釜ハ皆鐵製ニシテ其形狀二種アリ即チ横斷面V字形(圓錐形)ノモノトU字形ノモノトニ分類スルヲ得ヘシ竈ハ皆有架式ニシテ溝土ヲ以テ築造ス甲圖ハ平生在來ノ竈ノ圖ニシテ乙圖ハ近年漸ク行ハル、モノトス温メ釜ヲ据ル竈ヲはちト云フ圓形ニシテ内徑三尺深サ三尺五寸材料ハ溝土ナリ

石釜ハ横一丈一尺縱八尺深四寸鐵釜ハ横一丈二尺縱八尺深三寸五分ヲ普通トスト云フ温メ釜ハ其深サ等實際ニ於テ一定セザレトモ從來深三尺三寸口徑三尺三寸ノモノヲ普通ト稱セリ別圖石釜ハ稍大ナルモノニシテ横一丈三尺トス

### 三 石釜及竈築造方法及築造使用ニ至ル迄ノ操作 竈ノ上ニねだト稱スル長サ一丈四尺縱四寸横五寸角ノ木二本ヲ横ヘ之

ニ釜板ト稱スル扁平ノ板ヲ乗セ此上ヲ赤土八荷鹽一石三斗鹹水約四斗ヲ足ニテ踏ミ固メタル塗料ニテ塗り此上ニ徳山産縱五寸横四寸厚一寸ノ釜石約二百六十枚ヲ並列セシメ(釜石ノ質ハ花崗石ナリ)ふちばいと稱スル塗料ヲ以テ各石ノ間隙ヲ塗ル此操作ヲ名ケテはいどろみト云フ又全シ塗料ヲ以テ高サ五寸ノ釜縁ヲ作ル又釜石ノ間ニハつりト稱スル鐵製釣狀ノモノヲ以テ釜石ヲ釣ルノ裝置ヲナス(ふち灰ハ松葉灰一石八斗鹽二斗二斗鹹水約二斗ヲ混和シはいちちばいと稱スル長キ棒ニテ打ち固メタル塗料ナリ)此上ニ割木凡百貫久ヲ積ミ蓆十六枚ヲ蔽フテ火ヲ放チ加熱シ塗料ト釜石トヲ固結セシメ釜柱ノ

上ニかせぎト稱スル長サ一丈乃至一丈一尺縱橫四寸角ノ木二本ヲ横へ此上ニころばしト稱スル長サ一丈一二尺縱四寸横五寸角ノ木二本ヲ置キ其上ニつりぎト稱スル木七本乃至八本ヲ乗セ張金ヲ以テつりヲ釣り釣りタル上ハ釜板及ヒねだヲ抜き去ル石釜築造ノ操作之ニテ終結ス

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル装置構造及方法

鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル装置ハ頗ル單純ニシテ鹹水貯藏庫(方言だいづば)ヨリ

竹管ヲ通シ釜屋内ひよたんと稱スル水槽ニ輸送ス(圖面參觀)

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及方法 煎熬用器具ノ名稱種類員數及方法等左表ノ如シ(圖面參觀)

名	稱	員數	摘	要
釜	石	二五〇個	釜用	
くべ	十能	一本	竈中ニ石炭ヲ入ル、ニ用ユ	
わり	十能	一本	竈中ノ石炭塊ヲ碎クニ用ユ	
て	十能	一本	竈ノ架ノ穴ヲツクニ用ユ	
すき	十能	一本	架ノ下ヨリ石炭灰ヲ取出スニ用ユ	
あぶ	み	一本	架下ノ灰ヲ出スニ用ユ	
すみよせ	はねかい	一本	炭ヲ取運フニ用ユ	
ふち	かね	一本	釜築造用具	
さな	かね	一本	釜築造用具	
にがり	あわせ	一本	架築造材料	
つ	り	一本	釜中ニ苦汁注加後攪拌用具	
か	はし	四本	釜ヲ釣ルニ用ユ	
か	せ	一本	釜築造用具	
釜	板	一本	釜築造用具	
こ	ろ	一本	釜築造用具	

つ	七本	釜ヲ釣ルニ用ユ	七本	保存期限	一月	名	あにわがせり	員數	一本	新調査價	〇・五〇	修繕費	二〇〇	保存期限	一月
しほはねかい	一本	かいささノ鹽ヲ居出場ニ移スニ用ユ	一本	四十日内外	一月	つわがせり	あにわがせり	員數	一本	新調査價	〇・七〇	修繕費	二〇〇	保存期限	一月
ゑべり	四本	釜中ニテ拆出結晶スル食鹽ヲかいささニ移スニ用ユ	四本	六月	六月	かまばしら	あにわがせり	員數	四本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
いたしはねがい	一本	居出場ノ鹽ヲ貯藏倉庫ニ移スニ用ユ	一本	四月	四月	かまばしら	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	四月
かこ	一本	かいささ用	一本	三月	三月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	三月
柄杓	四本	苦汁ヲ釜ノ中ニ入ル、爲メ一本のるめノ鹹水ヲ釜中ニ入ル、爲メ二本ひょうたんヨリのるめニ入ル、爲メ一本ヲ用ユ	四本	六月	六月	釜せき	あにわがせり	員數	四本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
ふちきり	一本	鹽釜ノ中ヨリ外部即チ釜ノ縁等へ焼ケ出ツルモノヲ切ルニ用ユ	一本	四月	四月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	四月
いしがらくわ	一本	石炭灰ヲ捨ツルニ用ユ	一本	六月	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
すみかね	一本	釜築造用具	一本	六月	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
ぬるめ	一本	準備加熱釜	一本	六月	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
ひょうたん	一個	鹹水煎熬第四ニ説明ス	一個	六月	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一個	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月

六 釜其他煎熬用器具ノ新調査、修繕費及保存期限

釜石	二五〇	新調査價	〇・一〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	四十日内外	名	あにわがせり	員數	一本	新調査價	〇・五〇	修繕費	二〇〇	保存期限	一月
くべ十能	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	一月	つわがせり	あにわがせり	員數	一本	新調査價	〇・七〇	修繕費	二〇〇	保存期限	一月
わり十能	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	六月	かまばしら	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
てこ	一本	新調査價	七・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	六月	かまばしら	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
すき十能	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	三月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	三月
あぶみ	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	四月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	四月
すねみ	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
はねみ	一本	新調査價	三・五〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	六月	釜せき	あにわがせり	員數	一本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	六月
ふちかね	四本	新調査價	九・〇〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	四月	釜せき	あにわがせり	員數	四本	新調査價	二・五〇	修繕費	二五〇	保存期限	四月
さなかね	二個	新調査價	五・〇〇	修繕費	〇・〇〇	保存期限	二年	釜せき	あにわがせり	員數	二個	新調査價	一・七五	修繕費	〇・〇〇	保存期限	二年

柄杓	かねだ こかし	一丁	三〇〇	四ケ月	らいくし わわ	一本	五〇〇	四ケ月
柄杓	かねだ こかし	一本	二五〇	十五日	すみがね	一本	一五〇	五ケ月
柄杓	かねだ こかし	四本	二七〇	二ケ年	ぬるめ	二本	二〇〇	二ケ年
柄杓	かねだ こかし	一丁	一〇〇	一ケ年	ひよたん	一本	五〇〇	十ケ年

備考 柄杓ノ竹輪其他數次修理ヲ要スルニ付修繕費多額ニ上ル

七 燃料ノ種類、名稱、産地、價格及品質 燃料ハ石炭ニシテ上下二種ニ分ツ其名稱ハねばり及さいものト云ヒねばりハ

筑後三池肥前江向ノ産ニシテ目下其價格一振(十六貫匁)ニ付金二十五錢乃至二十八錢ヲ唱フさいものハ長門元山、筑前若松附近ノ産ニシテ目下一振ニ付金二十三錢ヲ唱フ但シ其價格ハ日露戰爭ニ際シ昇騰シタルモノニシテ戰爭前ノ相場ハねばり十六七錢乃至十八錢さいもの十錢乃至十一錢ナリシト云フ其發熱量ハ鹹水一釜分(鹹水一釜分一石七斗見積リテ)ノ煎熬ニ對シ一振四合ヲ要ス

八 一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量及一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量

釜別	温メ釜數	鹹水容量	比重	温度	製造鹽等級及數量	一釜煎熬ニ要スル燃料ノ數量
石釜	一	一、六五	一五	二〇度内外	〇、六〇〇	一、八〇〇
鐵釜	二	三、〇〇	一五	二〇度内外	一、一〇〇	三〇、八〇〇

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合 煎熬ニ使用スル石炭ハねばり三分さいもの七分ノ割合ヲ以テ混合セルモノナリ

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先テ汚物ヲ除去スルカ爲メ之ヲ濾過スル裝置ノ有無、構造及方法 該當記事ナシ

十一 鹽田一戸前又ハ一定段別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數、及賃銀 鹹水煎熬ニ要スル人夫ハだ

いく及よがまノ二人トシだいくハ煎熬ニ關スル一切ノ操作ヲ司ル即チ竈ノ築造ヨリ鹽ノ採出ニ至ルマテ一切ノ操作ヲ擔任

シ日日ノ仕事トシテハ毎午後十時ヨリ翌朝午前十時迄煎熬ニ從事シ午前十時よがまト交代スよがまハ一名ヲろろトモ

云ヒ毎午前十時ヨリ當日午後十時マテ煎熬ヲ司リ十時ヲ以テだいくト交代ス各人夫ノ賃銀ヲ示セバ左表ノ如シ

人夫別	日給	一年使役日數	一ケ年賃銀	備考
だいく	〇、三二〇 <sup>円</sup>	二五五 <sup>日</sup>	八一、六〇〇 <sup>円</sup>	だいく使役日數よがま使役日數ヨリ廿五日多キハ竈築造ノタメニシテ一回ノ築造五人役一ケ年間五回ノ築造トシテ延二十五人役ヲ見積リシニ依ルだいくニ限り別ニ酒料トシテ一日金三錢ヲ増給スルコトアリト云フ
よがま	〇、三〇〇	二一三〇	六九、〇〇〇	
合計			一五〇、六〇〇	

十一 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量并ニ其ノ收鹽量

釜別	一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數	鹹水量	容量	比重	温度	收量	鹽量	摘量	摘要
釜	一五 <sup>釜</sup>	二四、七五 <sup>斗</sup>	一五 <sup>斗</sup>	二〇度内外	九、〇〇〇 <sup>石</sup>	二五二、〇〇〇 <sup>斗</sup>	製鹽等級		
石釜	八	二四、〇〇	一五	二〇度内外	八、八〇〇	二四六、四〇〇	ク	ク	等外

十二 鹽田一戸前又ハ一定段別ヨリ得タル製鹽總量 鹽田一町五段歩ヨリ得タル製鹽量ハ五等鹽二千二百石此重量參拾八萬五千斤ナリ

十四 居出シ場ノ構造、大小、廣狹 居出シ場ハ專賣法施行以前ニアリテハ釜屋内土間ノ一隅ヲ以テ之ニ充テ別ニ整然タル裝置ナカリシカ法施行後大ニ鹽質ノ改良ニ留意シ目下其構造ハ如何ニセハ苦汁ノ離脱最モ宜シキヤヲ試驗中ニシテ其床等種々ノ裝置ヲナセリ例ヘハ石炭殻、竹簧、板張等ニシテ就中板張(一間ニ付約六七寸ノ勾配ヲ以テ傾斜セル)ノ成績佳良ナルヲ以テ各製鹽者皆此構造ヲ採用スルノ傾向アリ板張ハ上ニハ蓆ヲ以テ天井ヲ張り側壁ニハ板ヲ建テ床ノ最低部ニハ溝ヲ設ケ苦汁ノ流出ニ便ニセリ其大小、廣狹ハ各煎熬場毎ニ一定セスト雖モ普通三日乃至七日間分ノ鹽ヲ置キ得ル程度トナセリ

十五 煎熬ニ關スル操作及其方法 先ツ鹹水貯藏庫ヨリひようたんニ通スル竹管ニヨリテ鹹水ヲ釜屋ニ輸送シひようたん



二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定段別ノ收支計算表

收入金二千參百拾圓

但收鹽總量貳千貳百石(參拾八萬五千斤)ニシテ百石當價格金百五圓

支出金貳千百拾五圓四拾壹錢四厘

內 譯

金	額	摘	要
	二〇〇〇	入替土代	
	六五〇〇	桶柄杓代	
	九〇〇〇	沼井菰代	
	二一〇〇	礮子代	
	七五〇	藁代	
	二二五〇	小竹代	
	五〇〇〇	鹹水溜修繕費	
	六〇〇〇	堤防樋管水閘修繕費	
	二〇〇〇	鋤代	
	五三〇〇	建物修繕費	
	二五〇〇	下拵費	
	一五〇六〇〇	煎熬用人夫賃	
	四一五八〇〇	採鹹用定備四人(すけみづヲ除ク)人夫賃	
	一二五五八四	全 上食費	
	七一五〇〇	よせ、ぬるふみ給料	
	七五〇	石灰代	

二四〇〇	塗灰代
一二五〇〇	釜石代
一九八〇	赤土代
八八〇〇	温メ釜代
一七〇〇〇	金物代
一四〇〇〇	薪木代
二四〇〇	釜築造用蓆代
九二〇〇	石油代
四〇〇〇	籠代
七五〇〇	釜屋修繕費
七五〇〇	石炭代
五二〇〇	租税、公課金及組合費
一五〇〇	包装費
七五〇〇	据置金
三〇〇〇	雜費
一八〇〇	小作料金

差引殘高金百九拾四圓五拾八錢六厘

二十二 其他探鹹煎熬ノ方法鹽田釜竈其他ニ關シテ進歩シタル點、改良ヲ要スヘキ點及改良案

一 探鹹煎熬ノ方法ハ當業者一ニ舊慣ヲ墨守シ改良ノ途ヲ知ラス隨テ進歩シタル點皆無ニシテ指摘スヘキ缺點多カルヘシト  
 信ス當業者中適々改良ニ意ヲ傾クルモノアルモ一面生産費ノ增高ヲ恐レ敢テ其實ヲ舉クルモノナシ概シテ當地方ノ鹽質  
 ノ粗惡ナル附近其類例ヲ見ス故ニ當業者ニ改良ノ途ヲ指示シ鹽質ヲ上進セシムルノ必要益々切ナリトス專賣法實施以來  
 深ク此點ニ留意シ居出場、貯鹽倉庫、釜屋等ノ整理ヲ遂ケシメ稍々鹽質ヲ上進セシムルヲ得タリト雖モ之レ眞ノ末技ニ

屬シ九牛ノ一毛ニ値セサルヘク必スヤ採鹹煎熬ノ方法ヲ教ヘ根本的改良ノ實蹟ヲ舉ケシメサレハ附近ノ地ヨリ聲價ヲ壓倒セラレ之ニ對抗スヘカラサルニ至ルヘシト信ス而モ此レカ改良方法ハ今尙ホ講究中ニ屬シ入替士ノ撰擇、鹹水濾過裝置ノ設備ヲ始メトシ多少ノ考案ナキニ非ラサルモ法實施以來日極メテ淺ク未タ充分ニ之ヲ論シ之ヲ驗シ範ヲ斯界ニ示スコト能ハサルハ深ク遺憾トスル處ナリ

### 第四章 製鹽及副産物ノ種類用途

一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量

種別	一定段別	全上ヨリ生産スル數量	鹹水ト混合ス	産地
眞鹽	一段七畝三步	七〇五	鹹水ト混合ス	伊保庄揚濱 阿月村揚濱
	一町五段歩	二、四三		
差鹽	五等	約六分	鹹水ト混合ス	伊保庄村 阿月村 佐賀村 麻里府村 麻郷村 曾根村 平生町 柳井町
	三、八五、〇〇〇斤	約六分		

二 鹽ノ理化學的性質

鹽ノ結晶ハ種々アレトモ大中小ニ區別スルヲ得ヘシ等外鹽ハ結晶大ニシテ苦汁多ク淡褐色ヲ帶フルモノアリ五等及四等鹽ハ結晶中ニシテ灰白色ナリ二三等鹽ハ結晶小ニシテ白色ニ近シ一等鹽ハ從來絶無トス其成分ハ硫酸石灰、硫酸苦土、鹽化苦土、鹽化加里、鹽化曹達及水分等ナリトス

三 鹽主要ノ用途

當管内鹽ノ用途ハ食用漁業用及醸造用等其主要ナルモノニシテ農業及工業用之ニ亞ク食用トシテハ漬物及味噌ヲ初メトシテ日常烈煮ニ用ヒラレ漁業用トシテハ主トシテ北國ニ輸送セラレ醸造用トシテハ從來伊保庄村産眞鹽及柳井町産差鹽等最モ珍重セラレ有名ナル柳井甘露醬油ヲ産出ス農業用トシテハ肥料及牧畜殊ニ牛馬ノ飲料ニ供シ工業用トシテハ僅ニ小野田硫酸會社ニ使用スルニ止マレリ

四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量

豫テ經驗アルモノ二人ヲシテ各別ニ計量セシメ其平均重量ヲ取りテ鹽一石ニ對スル

重量ヲ調査シタルニ左表ノ結果ヲ得タリ

鹽一石當重量調査表

一	二	三	四	五
一斗樹	一斗樹	一斗樹	一斗樹	一斗樹
五升樹	五升樹	五升樹	五升樹	五升樹
一升樹	一升樹	一升樹	一升樹	一升樹
一	一	一	一	一
二、〇〇〇 <small>匁</small>				
一	一	一	一	一
二、〇〇〇 <small>匁</small>				
一	一	一	一	一
二、〇〇〇 <small>匁</small>				
一	一	一	一	一
二、〇〇〇 <small>匁</small>				

備考 二等鹽及三等鹽ハ伊保庄村産眞鹽ニシテ四等鹽及五等鹽ハ平生町産差鹽ナリ一等鹽ハ未夕産出セシコトナシ

五 苦汁ノ用途 當所管内ニ於テハ苦汁液ハ鹽田内溝渠ニ捨ツルヲ常トシ別ニ用途ナシ僅カニ豆腐製造及漆喰ノ原料ニ供

スルニ止マレリ若シ肥料、農事ノ驅蟲劑其他諸般ノ用ニ供セラレ或ハ工業會社附近ニ起リ廢物視セラレタル苦汁ヲ利用シ  
諸種ノ産物ヲ出スニ至ラハ製鹽ノ副産物トシテ鹽業家收入ノ一端トナルヘシ深ク研究ヲ重ネ之レカ用途ヲ開クハ頗ル有益  
ノコトナリト信ス

六 苦汁利用ノ方法 當管内ニ於ケル苦汁ノ用途ハ豆腐製造及漆喰原料用ノ二途ニ止マルコトハ前述ノ通ナルカ豆腐製造

用トシテハ豆乳約壹斗貳舛ニ苦汁五勺ヲ注入シ流動体ノ固定ヲ催スニ在リ漆喰原料用トシテハ赤土一斗石灰八舛ヲ混和シ  
之ニ苦汁一舛ヲ注加シテ十間用漆喰トナスト云フ

七 苦汁ノ生産量 未詳

八 苦汁ノ貯藏装置及貯藏方法 該當記事ナシ

九 苦汁一石ノ賣買價格 未詳

十 運搬方法及其販路地 該當記事ナシ

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造装置及製造方法 該當記事ナシ

十二 副産物ノ種類名稱及用途 該當記事ナシ

十三 副産物ノ價格及販路地 當該記事ナシ

十四 鼠鹽かいさき鹽、泥鹽、居出シ鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽産出額及其使用方法販路及價格 從來鼠鹽、かいさき鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽ハ良鹽ニ混入シ普通ノ價格ヲ以テ販賣シタルモノニシテ別ニ粗惡鹽トシテ取扱ヒシコトナシト云フ但シ居出鹽かいさき鹽其他ニシテ到底良鹽ニ混入シ能ハサル事情アルモノハ肥料トシテ十貫目ニ付金參拾貳錢乃至參拾五錢ノ價格ヲ以テ附近ノ地方ニ販賣セリ其産出額ハ一戸前ニ付十六貫俵三十俵乃至三十五俵ナリシト云フ

### 第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ容量左ノ如シ重量ハ季節ニヨリ又ハ製鹽場毎ニ異同アルヲ免レスト雖モ一俵當二百三十五匁以上二百八十匁以下ナリト云フ

包裝名稱	呼稱量目	正味量目	摘	要
六八	六八 <sup>合</sup>	六八 <sup>合</sup>		
七五	七五	七五		
八〇	八〇	八〇		
九二	九〇	九二	販路九州行	
一〇〇	一〇〇	一〇〇		
一三〇	一三〇	一三〇	下關及北浦行	
一四〇	一四〇	一四〇		
一六〇	一六〇	一六〇		
二二〇	二二〇	二二〇		

11011

三六〇	四二乃至四五	四八乃至五二	五〇
至自	至自	至自	至自
三六〇	四二〇	四二〇	四二〇
五〇〇	四八〇	四八〇	四八〇
五〇〇	五二〇	五二〇	五二〇
至自	至自	至自	至自
三六〇	四二〇	四二〇	四二〇
五〇〇	四八〇	四八〇	四八〇
五〇〇	五二〇	五二〇	五二〇
朝鮮行	北國行	全上	

正味量目ハ前表ノ如シト雖モ商賣ノ狡猾ナル動モスレハ顧客ノ眼ヲ盜ミ實際ニ於テハ一割乃至一割五分ヲ減シテ奸利ヲ逞ウセシカ因襲ノ久シキ遂ニ公然ノ秘密トナリテ需用者供給者共ニ怪マサルニ至レリ平生鹽ノ聲價ノ失墜ハ蓋シ鹽質ノ粗惡其主タル原因タルヘキモ抑モ亦不正ナル秤量ハ此惡評ヲ招キタルニ非ラサル乎

秤量ノ不正ハ獨リ製鹽者カ奸利ヲ逞ウシタルニ止マラズ適々以テ運搬者即チ船員ニ奇貨ヲ得セシムルニ至レリ即チ船中土産ノ名目ノ下ニ十石ニ付二斗五升(二步五朱)ノ賄賂鹽ヲ贈ルノ習慣トナリタリ然ルニ船員カ此賄賂ヲ受クルコト問屋ノ知ル所トナリ問屋ニ於テハ船員ノ給料ヲ減シ之ニ代ルニ受賄ヲ承認シテ給料ノ減額ヲ補填セシムルノ弊風ヲ生セリ但シ五〇ニ就テハ商畧上聲價恢復ノ爲メ正味ヲ充タスコトニ勉メ尙二升ノ入増ヲナス契約ナリシ爲メ船中土産ハ之ヲ贈ラサリシト云フ

二 包裝ノ形狀、種類 包裝ノ形狀ニ三種アリ梅鉢、八ッ角、九ッ角是也皆蕪製ノ俵ニシテ稀ニ六ッ角ヲ用ユルコトリア遠國ニ輸送スル鹽ハ包裝ノ上ニ更ニ蓆菰ヲ着セシム之ヲ上菰ト稱ス

三 包裝編製方法及其原料 包裝ハ普通ノ菰ニシテ蓆ヲ以テ編製シ繩ヲ以テ製俵ス

四 各種包裝ノ價格 包裝ヲ別テ四種トス小俵(縱七寸五分横一尺五寸八分以上九分入)中俵(縱八寸横一尺六寸五分)齊田俵(縱一尺横二尺)及大俵(縱一尺二寸横二尺五寸)是也小俵中俵及齊田俵ハ貳拾枚ヲ一把ト稱シ大俵ハ拾枚ヲ一把ト稱シテ取引ス其價格左ノ如シ

包裝別把	數枚	價格	包裝別把	數枚	價格
------	----	----	------	----	----

小	俵	一	二〇	〇、一八〇	齋田	俵	一	二〇	〇、一三〇
中	俵	一	二〇	〇、二〇〇	大	俵	一	一〇	〇、一三〇

五 包装ハ一重ナルカ又ハ二重ナルカ又ハ其形狀大小等販路先ニ依リ差異ノ有無 包装ハ普通一重トス遠國ニ輸送スル場

合ハ二重トナシ又ハ菰着<sup>ゴモキセ</sup>トナスヲ見ル此場合ニ於テハ一重分ノ俵代又ハ菰着代ハ需用者之ヲ負擔スト云フ

二重ノモノハ俗ニ二枚俵<sup>マイタツラ</sup>ト呼ヒ八ツ角又ハ九ツ角ニシテ内外共同一ノ形狀ナリ但シ内ナル俵ハ中央一ヶ所繩結トシ外ナル俵ハ五ヶ所繩結トス菰着ノ分ハ内外共三ヶ所繩結トセリ

六 包装ニ附記スル商標其他記號ノ種類、形狀、大小 包装ニ附記スル商標ハ概ネ烙印ニシテ之ヲ類別スレハ左ノ如シ

(圖面參觀)

甲 濱名ノ一二字ヲ附記スルモノ

乙 製鹽業者ノ姓名ノ一二字ヲ附記スルモノ

鹽田會社ニ於テ青判ヲ以テ記號ヲ附シ檢印トナスコトアリ

七 秤量器(枰)ノ種類、形狀、大小、及材料 秤量器ハ桶ヲ用ユ材料ハ木製ナリ計量ハ摺切ニシテ其用具ハ俗ニますがきト稱ス木製ナリ

## 第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小、壁床ノ構造 倉庫ノ構造ハ屋根ハ瓦葺アリ藁葺アリ又壁ハ板張アリ藁張アリ或ハ天井ノ有ルアリ無キアリ其面積モ又一定セスト雖モ從來ハ悉ク保存ヲ目的トシテ設ケタルモノナレハ多クハ包装ノ上貯藏スルヲ常トシ隨テ土間ナリシカ專賣法實施以來大ニ鹽質ノ改良ヲ獎勵シタル結果當業者間一般ニ床ヲ改造スルノ必要ヲ認メ或ハ竹簀ヲ以

テシ或ハ石炭殻ヲ深ク埋メ其上ニ床ヲ敷キ或ハ板ヲ以テ撒鹽ノ儘貯藏シ其熟レカ最モ克ク苦汁ヲ離脱スルニ適スルヤニ付キ目下猶ホ試験中ナルカ如シ然レトモ全管内ヲ巡視シ其効果ヲ驗スルニ傾斜面ノ板ヲ敷ケルモノ最モ好望ナルヲ認ム但シ板ノ傾斜ハ一間ニ付六七寸ノ勾配ヲ下ルヘカラス(圖面參觀)

二 貯鹽方法及貯鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態 從來ニ於ケル貯藏方ハ單ニ保存ヲ目的トシ改良ノ意ハ毫モ無カリシヲ以テ通常顧客ノ注文ニ依リ居出シ鹽ヲ包裝シ取引ニ至ルマテノ期間之ヲ倉庫ニ保管スルニ止マリシヲ以テ長クトモ二三日間ニシテ倉出シヲナシ決シテ一ヶ月ニ涉ルカ如キコトハナカリシニ付俵ノ損傷ノ程度及狀態等詳ナラスト雖モ要スルニ品質粗惡ニシテ苦汁多カリシ爲メ二三十日ヲ經過スレハ包裝ノ外部前面濕潤シ苦汁滴出ノ狀態ニ及ヒシハ事實ナリト云フ專賣法實施以來其目的皆改良ニ出テ撒鹽トシテ貯藏シ苦汁ノ離脱ニ勉メ居レリ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積載方法

包 裝 別	積 揚 高	一 坪 俵 數	一 坪 積 揚 數
八 舛 俵	五	四九	二四五
一 斗 俵	五	二五	一二五
二 斗 俵	三	二五	七五
五 斗 俵	二	一六	三二

積揚方法ハ例ヘハ八舛俵ナレハ五俵重ネトシ五斗俵ナレハ二俵重トスルカ如ク積揚後凡テ方形ヲナシ三角ヲナスコトナシ此俵ハ從來ノ積揚高ヲ掲記セルモノニシテ其積揚高比較の少ナキニ失スルノ感アルハ鹽質不良ナル爲メナリシカ目下大ニ改良ノ實ヲ舉ケタルヲ以テ此以上積揚ケ得ヘシト認ム

四 一ケ年間ニ於ケル眞鹽、差鹽ノ各貯藏歩減及各滴出苦汁量 從來當管内ノ鹽質ハ甚シク粗惡ナリシモ價格低廉ニシテ著シク他地方ト懸隔セルヲ以テ賣レ口ハ却テ好良ニシテ大抵居出シ場ノ鹽ニ付賣買ノ契約成立セシテ以テ絶ヘテ撒鹽トシ

ヲ貯藏スルノ必要ヲ生セス適々包裝鹽ヲ貯藏スルモ其日數二三日ヲ出テスシテ倉出ヲナスコト前述ノ如シ故ニ貯藏歩減及滴出苦汁量等精確ナル調査ヲ遂ケ難シ萬一販賣ノ都合ニ依リ貯藏長時間ニ涉ルコトアリトセンニ此場合ニ於テハ極メテ苦汁ヲ離脱セシメサル様注意シタリト云フ

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置 該當記事ナシ

六 古積鹽ノ製造方法、製造期間ニ於ケル鹽歩減ノ割合 該當記事ナシ

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床四壁ノ構造 該當記事ナシ

## 第七章 鹽ノ販賣

一 從來當地ニ於ケル鹽販賣ノ方法 製鹽業者ノ機關タル鹽田會所ナルモノアリ是レニ取締人一名直立人三名乃至六名ヲ

置キ問屋ニ於テ鹽買受ノ申込ミアル毎ニ會所ヘ其買受人ノ住所氏名船名及ヒ石數等ヲ届出テ會所取締人ハ即時ニ直立人ヲ招集シテ鹽價ヲ協議確定シ問屋ヲ經テ賣買ノ契約ヲナス

契約ハ簡單ニシテ問屋ハ先ツ買受人ヨリ豫定ノ金高壹割乃至貳割ノ證據金ヲ受取り之ヲ會所取締人ニ預ケ置キ買受人ニ對シテハ證據金ノ領收證ヲ交付シ現品ノ授受ヲ了レハ取締人ハ前項ノ證據金ヲ問屋ニ返戻ス爰ニ於テ問屋ト買受人トノ間ニ仕切勘定ヲナスヲ通例トス

各地ニ於ケル消費者ハ仲買人ヨリ買收スルモノニシテ船主又ハ船頭ハ各需用地ニ運搬シ問屋ノ手ヲ經テ其地ノ仲買人ニ賣渡スモノナルヲ以テ各地ニ於テハ更ニ上荷船、仲使賃等ヲ要スルナリ

製鹽者ト買受人トノ間ニ於ケル現品授受ノ方法ハ會所ハ一旦鹽賣約ヲナストキハ石數、直段等ヲ會所印取帳ナルモノニ記入シ取締人及直立人署名捺印シ該帳簿ノ順番或ハ船舶入港ノ順序ニ依リ各鹽戶ニ容量、包裝ノ種類、俵數等ノ通知ヲナシテ之ヲ調製セシム而シテ包裝整頓ノ上ハ會所ニ屬スル上荷船(本船マテノ運搬船ニシテ三十石乃至五十石積ノ解船ナリ)ノ頭役ナル者アリ之レニ勘過證ナル

モノヲ交付シ頭役ハ即チ各上荷船ヲシテ滿潮ヲ利用シテ本船ニ運送セシムルモノナリ本船ハ多ク和船帆船ノ二種ニシテ船頭  
 自己ノ船アリ船主カ雇人船頭ニ委託セシモノアリ又各地ノ仲買人單身當地ニ來リ附近ニ於テ借船ヲナスモノ等アリテ一定  
 ナラス偶マ多額ヲ購入シ東京、北陸道等へ輸送スルモノハ瀛船積ミヲナスコトアリ鹽代價拂渡ノ方法ハ問屋ト買受人トノ  
 仕切勘定ヲナシタル翌日後ニ於テ各製鹽者ニ對シ豫算ヲ以テ金額ノ支拂ヲナシ年度ノ終リニ於テ通帳(問屋ト製鹽者トノ間ニ  
 鹽代通帳ナルモノアリ)  
 ノ決算ヲナスモノナリ

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買運搬スル方法、船員ノ給料船頭ト鹽商トノ關係 從來問屋ハ重ニ船頭又ハ  
 船主ニ鹽ノ賣買ヲナシ船頭、船主ハ之ヲ各地ニ運搬シテ仲買人ニ賣却ス而シテ仲買人ハ更ニ各地ノ小賣業者ニ賣渡スモノ  
 ナルニヨリ鹽ノ品質ヲ選フ然レトモ船頭ハ習慣トシテ鹽ノ品質等ヲ云ハス色白キモノニシテ苦汁多キモノヲ好ム是レ容量  
 ヲ思ハスシテ重量ノミニ注目スルカ故ナリ

鹽ヲ賣買スル船頭船主及ヒ仲買人ハ常ニ天候ト時機トヲ考ヘ低廉ナルモノヲ買約シ本船ニ積入ノ上ハ各需用地ニ運搬シ倉  
 庫ニ入ル、アリ又一時船舶ニ積載シ置キ時機ヲ待テ夫々賣却スルモノアリ船員ノ給料ハ一定セスト雖モ鹽船ノ船員ハ他ノ  
 商船ノ船員ニ比シ一割方低ク月給若干ヲ以テ取極ムルモノト鹽ノ出俵ヲ以テ報酬トスルモノトノ區別アリ前者ハ九州行ニ  
 シテ後者ハ東京行ノ帆船ニ多ク此慣習アリ其出俵ト唱フルモノハ例之ハ五斗入十俵ノ注文ニ對シ船員ト製鹽者ト協議ノ上  
 一俵ノ正味ヲ四斗五舛ニ包裝セシメ其五舛ノ剩除即チ千石ニ對スル五十石ヲ指スモノナリ

鹽ノ受渡ハ船員ノ負擔ニ屬スルヲ以テ成ルヘキ容量ヲ減シ元價單金ヲ低クシテ需用地ニ至リ重量渡シトナスナリ

三 從來ニ於ケル鹽ノ販路 當地平生沖濱、奥濱ノ製鹽ヲ總稱シテ立ケ濱鹽ト唱ヘラレ從來山陰、北陸兩道及ヒ九州へ專  
 ラ販賣セシモ明治初年前後ヨリ三田尻濱、松永濱等ニ於テ北陸道行キ五斗俵ニ大改良ヲ加ヘ販路ヲ擴張セシヨリ頓ニ同地  
 方ニ於ケル當地鹽ノ販路ヲ減シタリ其後北海道、東京、朝鮮地方へ販路ヲ得タルモ商況活潑ナラス近年迄ハ主トシテ九州  
 山陰道、東京、北海道等ノ各地ニ販賣セリ用途ヲ定メテ製鹽ノ注文ヲナシタルモノナシ

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約並ニ償却ノ方法 鹽業者カ資金ヲ融通シ併セテ販路ヲ擴張スルノ目的ヲ以テ同業者間ニ於テ委員ヲ選ヒ大阪地方ニ出張セシメ有力ナル船主若クハ仲買人ニ就キ前金賣ノ約定ヲナスコトアリ之レカ方法ハ舊節季ニ於テ豫約鹽ノ價格ヲ取極メ現金ヲ受取ルモノニシテ三步以上五步以下ノ歩引ヲナスヲ例トセリ而シテ翌春期ヨリ夏期マテノ製鹽ヲ以テ償却ス此慣例ニ依リ年々多少ノ得意賣ナルモノアリシモ近年ニ至リ之ヲ廢止セリ

五 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場小賣相場 明治三十七年以前三ケ年間ニ於ケル鹽ノ濱相場ハ左ノ如シ

區別	平 石 生 當		奧 舛 濱 當		平 石 生 當		沖 舛 濱 當	
	一	二	一	二	一	二	一	二
三十七年	九五〇	一、〇一四	一、〇一四	一、〇一八	一、〇一八	一、〇一五	一、〇一五	一、〇一五
三十六年	一、二一〇	一、〇一八	一、〇一八	一、二八〇	一、二八〇	一、〇一八	一、〇一八	一、〇一八
三十五年	一、〇〇〇	一、〇一五	一、〇一五	一、二五〇	一、二五〇	一、〇一七	一、〇一七	一、〇一七

六 鹽價ノ定メ方 第一項ニ述ヘタル如ク取締人直立人立會ノ上鹽白石ニ對スル價格ヲ目安トシ協議決定ス又習慣トシテ

鹽白石ニ付一石ヲ船頭又ハ買主ニ六斗ヲ船員ニ給與ス

鹽田會所費トシテ鹽白石ニ對スル價格ノ内壹歩四厘ヲ徵收ス又包裝ノ種類ハ元ト三種ニシテ即チ五斗、二斗五舛、一斗二舛五合ナリシヲ以テ其以外ノ容量ヲ望ムトキハ出俵第二項ノ制ニ全シニ相當スル包裝費ハ買主ノ負擔トセリ二重俵大俵五斗ニ用ユヲ望ムモノハ其上卷一重ノ薙代ハ亦買主ノ負擔ナリトス

七 販賣ノ季節 毎年春季製鹽始業以前二、三月ノ頃ヲ以テ四、五月中ニ於テ煎熬スヘキ見込石數ヲ賣約シ四、五月ニ於テ六、七月分ヲ八月以後ハ全國需用ノ最盛時季ナルヲ以テ其時々十、十一月ニ於テ十二月分ノ賣約ヲナスモノ、如シ而シテ年中ヲ通シ梅雨後ヲ十分ノ二トシ秋季ヲ四トシ冬季ヲ三トシ其他ヲ一トスルノ比例ナリト云フ

八 鹽ノ儀拔キ検査ノ方法 包裝ノ大小ヲ問ハス百俵ニ付二、三俵ヲ適宜抽出シ重量ヲ調査シ各俵同量ナレハ内一俵ヲ解裝シ不同ナレハ抽出俵數全部ヲ解裝シ均一トシテ總俵數ノ容量ヲ知ルナリ此場合ニ於テハ買主ト會所検査人樹取人問

屋手代等鹽戶倉庫内ニ立會之ヲ行フ

### 九 從來鹽ノ受渡ニ際シ重量容量ノ減少ニ對スル處置

從來鹽ノ受渡シハ容量ヲ主トシ一舁舁ヲ用ユルモ前項ニ云フカ如ク豫メ衡器ヲ以テ重量ヲ知り然ル后チ舁取人ニ於テ舁量スルモノナリ通例一舁ノ重量ハ二百五十匁ニシテ舁廻シノ際切欠

五歩以内ハ口打又ハ別俵トシテ辨償シ五歩以上ニ至ルトキハ更ニ相當ノ現品ヲ償ハシム又柳井濱ニ於テハ舁廻ハシニ當リ

五合以上ノ切欠アレハ倍増ニシテ飯合ハ六合切レナルトキハ俵別一舁二合宛ノ計算ヲ以テ千石トセハ十二石ヲ辨償スルノ

定メナルモ大概打舁ト唱ヘ其二分ノ一ヲ以テ和解スルヲ通例トス

包裝ノ種類ハ買主ノ望ミニヨリ大俵五斗二舁入以下五斗入ト唱フルモノヘ四斗九舁乃至四斗五舁ノ實量ヲ以テスルモノアリ

リ重ニ北海北陸兩道向キニシテ四斗四舁乃至三斗ハ朝鮮向キナリ又貳斗五舁ト唱フルモノハ貳斗四舁乃至二斗ノ實量アリ

一斗六舁入ト唱ヘテ一斗五舁乃至一斗參舁ノ實量アリ以上ハ東京北陸山陰道行キニシテ一斗以下七舁五合迄 小俵ハ專ラ

九州地方ニ向クモノナリ小賣一舁ノ實量ハ通例二百八十匁ナリ

### 十 鹹水賣買ノ有無及其方法、價格ノ定メ方 該當記事ナシ

### 十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其方法 該當記事ナシ

## 第八章 鹽運搬ノ方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其各種積載數量 所轄内各所大同小異ニシテ總テ潮時ヲ利用シ上荷船ヲ以テ海上ヲ運搬

スルモノナリ上荷船一艘ノ積石ハ三十石乃至五十石ニシテ數十艘各濱ニ分屬シ鹽戶倉庫ヨリ包裝鹽ヲ積入レ會根村水場港

ノ本船ニ運送セリ然レトモ溜船積入等迅速ヲ要スルトキハ上荷船ノ兩舩ニ差板ヲ施シ風波ヲ豫防シ八十石乃至百石ヲ積載

シテ溜船又ハ港外ノ本船ニ運搬スルコトアリ

二 各種運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料、諸掛費、保險料及着荷地ニ

於ケル諸掛費用等 上荷船ハ通常三十石ヲ以テ一般積ト定ム鹽戶倉庫ヨリ本船ニ至ルノ距離近クハ三四町遠キハ十七八町ニシテ運賃ハ海上ノ遠近ニ係ラス百石ニ對シ和船積ミ一圓汽船積貳圓トシ港外ニ碇泊スル汽船積入レハ三圓トス 出荷地ニ於ケル問屋ノ手數料ハ賣買金高百分ノ三トシ別ニ本船積鹽白石ニ付參拾錢ヲ要シ汽船積ハ仲仕人夫賃鹽白石ニ付一圓ヲ要ス

當港ヨリ各地ニ至ル運賃ハ買主ノ負擔ニシテ運搬地ノ遠近ニ依リ其額一定シ難シト雖モ鹽ノ運賃ハ他物ノ運賃ニ比シ通常一割五分多額ナリ

柳井濱ニ於テハ出荷地問屋口錢百分ノ三ノ外鹽包裝用菰繩代(其當時ノ相場ニ依ル)及ヒ惠比須金ト稱シ千分ノ五ニ相當スル金額ヲ買受人ヨリ受領ス

## 第九章 小作人ト地主トノ關係

### 一 小作人ト地主トノ關係

(一) 地主ハ小作人ニ對シ鹽田一戸前ノ小作年限加調金(鹽加調ノモノアリ)其他貸借上ノ事項ヲ協定シ小作人ハ請人連署ノ約定書ヲ地主ニ差入ル、モノナリ而シテ小作ノ期間ハ明治十三年ノ頃迄ハ五ヶ年契約ナリシモ當時鹽業盛況ニシテ小作希望者ノ多キヨリ入札法ヲ以テ小作料ノ高價ニ落札スル風習行ハレシヲ以テ爾來其期間ヲ三年乃至一年ニ短縮シ現今猶實行シツ、アリ

(二) 小作人ハ前項ノ約定ヲナスト同時ニ枕金或ハ敷金ト唱ヘ加調金ノ半額若クハ幾分ヲ地主ニ差入レ置キ小作年限滿期ノ年ノ加調金ニ立用スルモノナリ而シテ小作料ハ其ノ年五、七、九月又ハ八、十、十二月ノ三期ニ分納スルヲ例トセリ

(三) 公課、日常ノ需用品、石炭菰繩ノ買入費并ニ諸器械ノ修繕費ハ小作人ニ於テ支辨シ鹽田主要ノ建物、地場、沼井臺盛替普請等ニ屬スルモノハ其原料品ノ代金ヲ地主ヨリ支辨ス但地盤ヘ肥土トシテ年々入替土ヲナス費用ハ其幾分ヲ地主

ノ負擔トセリ

(四) 年々豊凶ニヨリ鹽價ノ甚シク高低ヲ生スルトキハ加調金ヲ増減スルコトアリ例之ハ豊年ハ一分乃至三分ヲ加ヘ凶年ハ其反對ニ減額ス又特ニ製鹽不作等ノ爲メ小作人ノ困難スルトキハ地主ハ更ニ相當ノ歩引ヲナスコトアリ其決算ハ年末ニ於テ之ヲ取極ムルヲ例トセリ

(五) 小作人ノ地主ニ對シ差入ル、三ヶ年規約證書一例ヲ示セハ則チ左記ノ如シ

三ヶ年限リ預リ申鹽田規約證

第一條

會根村字百濟部鹽田

壹 個

縫臺何百何臺

此建物鹽藏壹軒

瓦葺炭固屋

居固屋

濱子固屋トモニ葺葺

一棟釜屋

壹 軒

大坪二本

火所二ヶ所

第二條

加調金一ヶ年金百圓定

但シ諸上納諸小費小學費ニ至ル迄悉皆私ヨリ相調候テ御手取加調金一ヶ年分本文之通相違無御座候御調方之儀ハ七月限リ堅固ニ皆納可仕候事

第三條

据居金四十圓定

但シ鹽田御預リ仕候ニ付證據金トシテ年限中無利子金ニシテ差出置候年限中濱作堅固ニ候節滿年ニ至リ御加調金之内

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第九章 小作人ト地主トノ關係

御流用被下若シ濱作相止候節ハ爲其償捨テ退キ可申御定約勿論ニツキ其節ニ至リ一言御歎申出間敷候事

第四條 御遣鹽トシテ壹斗貳舛八拾貳俵宛若鹽抜キニシテ年々御入用之節ハ何時ニテモ御馳走トシテ差出シ申スヘクコト

第五條 諸固屋埜閉壁ヲサヘ瓦差替其外萬事小々ノ取繕ハ私ヨリ氣ヲ付ケ仕調ヘク候取繕等閑ニ打置キ大破ニ立至リ候節

ハ私ノ疎畧ヨリ起シ候儀ニ付キ御差圖通り仕調普請入目金ヨリ悉皆差シ可出其節ニ至リ否申候得ハ濱御取上ケ可被成段

承知仕候無據不被差置普請出來仕候節ハ前以テ御頼申出候間御普請可仰付ラル驅引心配ノ儀ハ私可逐其節ニハ御都合ニ

依リ私ヘ御任セニ相成候得ハ小〇〇ニ前積リ書差出可申ニ付實際御見分ノ上積リノ善惡ニ應シ請金額御定メ被成下候

前以テ念ヲ入ニ普請相調御見分ヲ請ケ可申其節ニ至リ前積リ書ト不都合ノ儀有之候節ハ差圖ノ通り幾重モ調替可仕無頼

ノ目帖ニテ普請仕候分ハ悉皆御馳走ニ献上可仕候滿年ニ至リ自費ヲ以テ相調候杯堅ク中間敷候コト

第六條 諸普請金之儀ハ私ヨリ差出置年々ノ御加調ヘ流用可被下ノ約

第七條 大坪屋根普請之儀ハ葺御立被下其他竹繩工役等ハ私ヨリ仕調可仕候事

第八條 坪普請ノ節ハ埴代御立被下其他手間代等ハ私ヨリ仕調猶坪守護隨分氣ヲ付ケシメサセ可申コト

第九條 諸固屋埜閉ノ葺替三ヶ年目ヨリ年々舊曆六月下旬迄ニ私ヨリ相調可申候萬一等閑ニ立置風雨ニテ破損致候等ハ私

ノ怠ヨリ起リ候ニツキ御差圖通り仕調入目金ハ私ヨリ差出可申約

第十條 縫普請之儀ハ九合ハタコ御立被下其外諸入目金ハ私ヨリ差出可申事

第十一條 釜屋普請ノ儀ハ私ヨリ仕調可候最モ八本道目損シ候上ハ御立下ケ可被下約

但シ風波等ニテ損シ候等ハ天災ノ儀ニ付夫ニ應シ諸建物共損シ候事ニ付キ釜屋ノ儀ハ本文通私ヨリ相調滿年ニ至リ速

ニ御渡方可仕事

第十二條 火用心第一氣ヲ付可申萬一火災出來候節ハ私ノ疎ヨリ起リ候ニ付キ普請入目相當ノ償金差出シ申スヘキコト

第十三條 土手廻リ通所々氣ヲ付ケ可申風波ノ節別シテ油斷ナク保護可致萬一意慢ヨリシテ切レ口ニ相成候節ハ濱御取上

ケハ勿論御普請入目相當ノ償金差出申スヘク事

第十四條 總會所入費并ニ諸役給引當トシテ鹽代價白分ノ一四御取立ノ儀承知仕候

但シ遺拙殘金ニ相成ル節ハ御地主申合ニテ川浚終甫ニ可被成段承知仕候事

第十五條 濱持チ始メ持チ止ミ規則ノ儀ハ定例春秋兩度集合申日限ノ外猥リ之儀無之様堅ク相守ル可ク持上ケノ日雨降候トモ翌日ヨリ決シテ地場惱之不相成段御承知仕候萬一規則違犯候節ハ濱御取上ケ被成候トモ否申上間敷堅ク約定候

事

第十六條 石炭焚カラ取除ノ儀會所御規則通リ三ヶ月限リ捨切可申候猶溝土釜土等ニ至ル迄大土手玉手等ニ捨テ置不申直

ニ捨除ケ可申滿年ノ砌ハ別シテ十一月ヲ限リ速ニ取除ケ御見分ヲ受ケ御引渡シ可申約

第十七條 入替土ノ儀ハ年々寒中壹臺ニ付下詰拾荷宛私ヨリ入足シ可申候御見分ノ儀ハ土不殘積取リ之上届ケ出候間御見

分被仰付其後夫々遣方可仕候約

第十八條 内汐廻シハ私ヨリ堀浚可仕約

第十九條 御役座ハ申スニ不及脇々ニテモ濱へ掛合之借金一向仕間敷候事

第二十條 年限中豊凶ハ勿調ニツキ譬へ凶年ニテモ御地主ヨリ相當ノ歩引被成遣候間脇濱作ハ申合セ論談ケ間敷無堪ノ御

歡申出間敷若シ不得心ノ儀有之ニ於テハ濱御取上ケ可被下トモ否申間敷約

第二十一條 預リ年限中私ノ勝手ヲ以テ又預ケ等決シテ仕間敷其他手代杯ト號シ紛ケ間敷振舞仕候節ハ濱御取上ケ相成候

テモ否申間敷約

第二十二條 滿年ノ節又ハ年限中ニテモ道具代ト號シ多分ノ代金ヲ取置後作讓リ方内約致候テ其者へ御預ケ方被成下候杯

不心得ノ事全ク申出間敷約

第二十三條 何カ事ニ依リ御地主御集會作人ヨリ願出候節ハ諸入目金私共ヨリ差出可申候猶萬一加調金納方引延致シ候節

ハ請人ヨリ調替可仕約

第二十四條 御差繰ニテ濱御賣捌キ被成候儀出來仕候節ハ仮令年限中ニテモ濱差返シ可申約

第二十五條 諸上納御加調皆濟不仕上ハ濱子給金前貸算決シテ仕間敷約

第二十六條 預リ年限相滿シ引續キ御預リ仕節ハ八月中ニ御相談可仕候左ナキ時ハ鵬方へ御預方ノ御取極メ被成トモ否申間敷約

第二十七條 預リ年限中凶年ノ節ハ相當ノ歩引被仰付候ニ付キ作方宜敷年ハ勿論相當ノ献金差出シ可申事

第二十八條 濱方諸規則總テ會所御張出シ前堅ク相守可申約

前條ノ御約定ニテ當十六年ヨリ往キ十八年迄滿三ケ年限ニテ御預リ仕候處相違無御座候然ル上ハ前條ノ廉々少シモ相背候儀有之候得ハ何時モ濱御取上ケ可被成其上立鹽水鹽其他諸道具諸器械ニ至ル迄爲償差上ケ可申御定約ニ付御封メリ被仰付御存分ニ御取捌可被成其節ニ至リ一言否申者無御座警故障申出候トモ御構トニ及不申依テ爲後年請人相立濱頭取印附御印紙貼用差出シ申御約定證書如件

預リ小作人

林 千 介

鹽田御地主

市 浦 武 助 殿

藤 井 秀 助 殿

前書ノ御定約ヲ以テ百濟部濱林千介へ御預被成遺無相違承知仕候萬一本人御條約通リヲ少シニテモ違背仕候節ハ私罷出取捌仕御手数數ヲ掛ケ申間敷段御請負仕依テ調印仕候也

同 月 日

請 人

## 第十章 組合

明和年中防長二州鹽業者ノ同盟ニ始マリ續イテ彼ノ十州鹽田同盟會ナルモノ興リ年々備前ノ瑜珈安藝ノ嚴島ニ於テ鹽業者ノ集會ニ胚胎スルモノニシテ本郡ニ於テモ年々春秋ノ二季室積村ニ各現業者ノ集會ヲナシ始業終業ノ定日其他鹽業ニ關スル事項ヲ協議研究シ來レリ中途鹽業者ノ行動區々ニ涉リ往々斯業者ノ不利益ヲ招キ延イテ地方ノ衰微ヲ來サンコトヲ慮リ文化十一年毛利隱岐守平生鹽濱惣會所ヲ水場ニ設置シ其現定書ヲ作り諸般ノ取締并ニ歩銀ノ取立等ヲナサシメ廢藩置縣后鹽業者ニ於テ之ヲ繼續シ來リシモ明治十九年沖濱、奥濱ニ分離シ各獨立シテ鹽田會所ヲ設立スルニ至レリ

藩政時代ニ於ケル規定等ハ記錄ノ徵スヘキモノノ乏シキモ今一二現存スルモノ并ニ嚴島集會連印帳沖、奥兩鹽田會所ノ規則ハ多少參考ニ資スルヲ以テ原文ノ儘左ニ掲記ス

柳井鹽田會所ニ於テハ鹽炭賣買ノ直立ヲナシ又ハ濱子ノ給料ヲ取極ムルニ過キスシテ別ニ規定ヲ設ケタルモノナシ

## 御會所被仰出鹽濱諸締御定法寫

## 一 第一大要慎會ヲ入候事

附リ大風吹之節ハ早速立釜いけ方可致候事

## 一 高潮ノ節ハ樋之口ヘ別テ念ヲ入事

附リ常ニ土俵之用意可有之事十七夜ニハ格別ニ三俵尤モ相用可申事

## 一 客船入津有之問屋ヨリ直立ヘ申出候ハ、早々出湯相談可有之事

但シ地場持目時分出湯迷惑ニ候得共奥濱之事ニ候得ハ格別之心配ヲ以テ物毎取扱可有之事

## 一 鹽直段ハ直立中申談ニテ外人ヘ相談可爲用捨候若心得之有之直段高下ニ付テ支配之割前相妨候時ハ脇濱ニテ買替石高

無相違相調可申候右買替相欠ハ會所申出候ハ、早速可申附候事其沙汰

一 買替鹽相者五斗之定大法之事ニ候得ハ尤時ニヨリ直立見計以テ無遠慮可申付事

一 總テ鹽買出直段等相濟候上ハ支配帳鹽高直段小割迄付記觸方可申付候事

一 大俵九合切ヨリ過料銀拾匁但シ壹舛五合ヨリ拾五匁其餘壹合壹匁増之事

一 貳斗八四合切ヨリ過料銀拾匁但シ六合ヨリ拾貳匁其餘壹合壹匁増之事

一 壹斗六舛入三合切ヨリ過料拾匁但シ五合切ヨリ十二匁其餘壹合切ヨリ壹匁増之事

此以下右同様孰モ俵欠勿論之事

一 鹽仕舞方俵拵ヘ舛目等迄會ヲ入可申候不埒之仕舞方有之候テ濱一般ノ妨ニ候條毎々氣ヲ付ケ仕舞方可有之事

一 但シ黑鹽ヲ交セ舛目等迄モ棕候類濱不繁昌之基ニ候條吃度吟味可有之事

一 鹽仕舞方不埒貳度モ相續候時ハ不及用捨金壹兩過料申付候事

一 扱鹽堅ク不相成候事

一 積出之鹽ハ直立ヘ届出差引ヲ請其上ニテ取扱勿論之事

一 室積水場邊ヘ濱ヨリ直ニ積出之一切不相成之事

一 他所鹽積廻方堅ク無用之事

一 番掛リ扱候逆モ後番ニテ重仕舞不相成之事

一 總テ鹽ハ多少不限支配座之注文ヲ取手板ヘ勘印ヲ請其上ニテ積取之沙汰可申附候最モ一ト所ニテモ届出無之時ハ全ク

扱鹽ニ候條過料金壹兩取揚之事

一 時々寄附屋買添又ハ灘欠喰鹽等差掛リ急ニ入用有之直立届出候テハ隙取客船迷惑候得ハ一ト番不足之鹽勝手次第ニ仕

舞セ其由後ヨリ直立ヘ届出可有之事

一 問屋不埒之買方有之時ハ已後之買方一切不相成候事最モ其客船之買鹽ハ直立ヨリ脇問屋ニテ買調サセ可申候事  
但シ拔鹽者其罪ハ濱問屋同様之事

一 問屋ニ寄鹽賣苦敷濱モ有之候得ハ其由兼テ直立へ届出置候事差掛リ申出之儀ハ決テ取揚申間敷候最モ本問屋之儀格別之事

一 惣テ鹽者物替之至迄直立之差別次第之事

一 積出之鹽ニ號之色々石付紛敷賣方有之時ハ不能論ニ扨留可申候自然彼是ニ我儘申時ハ尙モ不及用捨過料申付候事

一 何々不寄直立ニ治定相成之儀ハ不承知之者モ有之候ハ、早速會所へ申出可有之事

一 支配鹽代銀之儀客船出帆ヨリ三日限リ會所へ仕出可有之候事

一 上荷船ハ以前定之石數積方勿論之事候得共時々寄客船添ニテ不相捌時ハ船見合之上ニテ積増モ不苦事

一 惣テ鹽ハ惣支配之事ニ候得共其内鹽賣繁ニテ問屋之買方調兼候時ハ直立相斷身寄買ニモ可相成事ニ候得共其付廻シ注文へ直立之間印ヲ請其上ニテ買廻シ可申候事

一 鹽持八軒迄相揃候時ハ惣割七軒迄ハ買替ニ不申及候事

一 最モ春梅雨晴之儀ハ十五軒迄ハ金揃之時ハ惣割之事

一 新規新法之濱持惱決テ不相成候事

一 但シ持初持止ミ之節ハ會所ヨリ申付候迄屹度可相守候事

一 管鹽ハ借主之名前直段賣場所且中積上荷名迄切紙ニ相記濱問屋雙方ヨリ直立へ届出出濟之上ニテ取扱可申候事

一 物替之儀ハ右同様之事ニテ惣支配之物替ハ番廻欸亦ハ身寄ニモ致サセ候欸直立差別次第之事

一 炭替之鹽ハ炭代鹽高直段迄モ兼テ雙方ヨリ直立へ申出置候テ其後積取之節引合ヲ請積方之事最モ届無之拔鹽也

一 鹽直段之儀ハ湊内脇濱勿論諸方之相場振合相考兎角客船馴付候様取扱之事

一 地場ヨリ入替土堀取事不相成事

一 溝土手ニ溜置不相成早速取除可有之事

一 濱中焼印損之時ハ委ク會所へ申出可有之事

但シイロハ印

一 鹽直段立之外新規之申談有之直立中計ニテ落差不相成儀ニモ有之候時ハ外濱人之内功者之人柄壹兩人相加へ相談可有之候最モ惣寄合ならてハ不相濟儀ハ格別大操之儀ハ惣寄合可爲用捨事近來濱一爐不勘合ニテ諸入目等致減少纔之相談モ惣寄合ニテハ雜佐入モ給候條可相成事ニ候得ハ直立中計リニテ相濟度事ニ候勿論濱業ニ付テハ身上之高下之差別無之只直立ヲ頭ヨリ想候テ萬端取扱可有之候事時々寄直立ヨリ相招キ候人柄早速ニ出濁相談可申候隙取候テハ先出之者及迷惑候條若添筋モ有之時ハ其段早速ニ相斷可申候兎角濱中柔和之取扱第一ニシテ濱成立之手段肝要之事候

附リ功者顔ニテ我意ヲ申募都テ相談之妨ニ相成者モ有之候得ハ早速ニ會所ニ届出可有之候事

右ハ先年御定法義有之事ニ候得ハ近來不心得之者モ有之候條此段改テ廉々申渡候嚴重ニ相心得候事

弘化二歲巳三月

會 所

奉 公 人 請 狀 之 事

一 當暮差問ニ付各中申談明歲御奉公之御約定仕候次第左之通堅固ニ相守可申事

庄 屋 何 右 衛 門 判

請 人 何 兵 衛 判

右者私共當御上納方御米銀餘分未進御調之方便無御座候ニ付來ル何年貴公様へ御奉公之御約速仕候忍銀之内前貸リトシテ前書之通借用仕御上納皆濟仕難有仕合ニ奉存候然ル上ハ當十二月二十五日ヨリ來ル何之十二月二十五日迄堅固ニ御奉公仕忍銀之内ヲ以テ無相違御調方可仕候萬一病死逃走不埒等候節ハ銘々立置候請人替ニ罷出一日ニテモ御間ヲ欠、セ申間敷候前斷之前銀堅固ニ御調方可仕候依テ請人引請ニテ御損亡者掛申間敷候依テ請人加判仕此上不埒仕候ハ、濱法ニ被仰付心外筋被仰掛候テモ私勿論諸親類第一ハ御役場ヨリモ一言否申者無御座候其砌請人逆モ同様之御取計以テ預リ御斷立無御座候近來世上不埒之筋有之由ニ付返テ已後奉公等妨ニモ相成事ニ付乍念メリ書仕相渡置申所如件

何々何月

濱主名前

持方心得之事

- 一 御會所ヨリ被仰出御ケ條之辻堅固ニ相守可申候事
- 一 春濱下拵持初近仕入旁手扱不仕様念ヲ入可仕候事
- 一 脇濱ヨリ増鉞壹鉞引方可仕候事
- 一 一起シ濱七鉞ヲ詰ニシテ起シ候事間板ヲ入廻摺板汐打勿論之事
- 一 一板替持ニテモ定之汐打定メ貳人掛リ板ヲ掛其外且那之勝手筋相當ノ事ハ新規之事ニテモ可仕候事
- 一 一固屋中何事モ庄屋上脇相談之上下濱子へ委細申聞セス事
- 一 附リ定脇下濱子頼庄屋ヲ脊シテ又ハ庄屋上脇ヲせなニシ候得共自然ト固屋猥リ相成ニ付兎角何事和談ヲ以テ傍等睦シク可仕事
- 一 第一庄屋固屋誥可仕候無據宿見舞之節ハ勿論之上可仕候我儘宿下仕候節ハ過料被仰付候事下濱子之儀ハ庄屋聞濟候宿下可仕候不埒之宿下仕候時ハ過料被仰付候事

一 釜屋ノ儀ハ火用心第一之事大工釜修固念ヲ入最モ大工不寄夜釜庄屋上脇ニ至迄釜條固ノ手拔無之儘隨分氣ヲ付ケ仕候事  
附リ當時ハ板之通石炭高直ニ相當候得ハ餘分配不申様焚台隨分念ヲ入氣ヲ付ケ可仕候事

附リ釜屋ハ晝夜不寢之事候得ハ地場之溝汐入落リ之節ハ固屋之者寐忘起忘不氣附有之候節ハ釜屋ヨリ氣ヲ付ケ可仕事  
一 樋番何日替ニシテ下濱子樋番相當之節庄屋上脇之儀定番シテ油斷無之様氣ヲ付ケ可申候

一 大風雨高汐之節ハ晝夜油斷仕間敷候事

一 濱持初ヨリ持終リ迄ハ下濱子ハ勿論寄縫踏板掛跡突下垂ニ至迄男寄セ其働ニ氣ヲ付有増成時ハ庄屋上脇ヨリモ所作ヲ教  
ヘ惡番所ヲ爲直サセ可申候事

附リ此内以來脇濱ヲ掛相ニシテ勝負之持様有之由左候テハ自然ト荒増ニ相成汐付之泥ヲ殘リ不宜候相見付譬掛相持迎  
モ隨分念ヲ入持方可仕候

一 水取様之儀ハ其日之見合ヲ以テ取方可仕候事最モ日和打續坪限リ取之節ハ跡ヘ廻リ取事少ニテ殘シ申間敷候事

一 寄縫踏板掛跡突下迄前貸此者共無據筋有之テ暇ヲ取候特ニ盆迄半銀之事餘ハ是順ニ差引事

一 濱近所御家中様方御通之節雜言不禮仕間敷候事

附リ女中故被通候節ハ雜談申間敷候

一 旅人ヘ一宿ニテ貸申間敷候事

一 博奕喧嘩口論仕間敷候事

古之廉々承知仕候上ハ堅固ニ相背申間敷候依テ如件

月 日

覺

一 近頃ハ寄板掛跡突縫踏其外ニテモ心得違之者段々有之テ自然モ働我儘成事有之候ハ、此度改テ夫々之働様申渡迄銘々働

ニ隨分念ヲ入候事

一 寄板引合ニ泥ヲ不殘跡ニ小泥無之樣溝縁ヲ寄置候事新寄板隨分念ヲ入候事

附リ門垂替初ヲ手輕ク加ヘ坪脇ニ水瀾ヌ様ニ當子ヲ直ニ置候事縫坪之縫廻リ之小泥かき込ミ高下無之様ニ坪當子ヲ通

リ通ニ直シ置事尤モ脇ヒラヲ見合縫ノ落々段ハ下垂ニ申附替サセ可申候下垂手後レ候節ハ門垂替其加減増替ノ事

一 板掛初ハ二筋一鍬通行突かき寄最モ小泥不殘様ニ手内上ケ勿論之事夫ヨリ板ヲ掛少々門相ニ泥ヲひろい隨分念ヲ入事

一 跡突入鍬之間ニ合セ突候事亦脇々小泥有之候時ハ夫ヲ掛ヲ突隨分氣ヲ付候事

一 下垂初ハ貳筋通板掛之跡ヲ寄セテ下垂ヲ替之事最モ當子なしノ替之時ハ縫ノ内ニテ替之事

總テ坪底ヲ氣附若坪切ニテ出水見ヘ候ヘハ庄屋上脇相知ラセ候事

一 縫踏泥ヲ銘々持ケ廻リ小泥ヲかき込ニテ眞録ニ坪シ候事間相ニ地場泥ヲ振候事近頃ハ地場之手子働候故自然踏樣荒増ニ

相見庄屋上脇見合ヲ以テ隨分念入サセ候事

一 男寄此働者事ニ寄テ不定持籠之先ヲス人〇〇最前坪ニ泥落サヌ様ニ縫ノ中ヘ入候事最持籠損候時ハ男寄取繕ヒ勿論之事

以上 極月二十五日

明治 六 酉 四月

於嚴島諸集會連印帳

記

一 產物増殖盛大取行鹽濱爲永續遠近因合之箇所於嚴島會議之條左之通

一 濱業仕法之儀者去ル安政度寅卯兩歲集會申值規定之通嚴重取行候事

一 前文兩歲議定之内持返業之儀者相除申度ニ附慶應元寅歲於伽峯申值之趣ハ候得共此度欠席之濱所多ク熟談致兼候ニ付尙

追々評議所可致候事

一 濱業永續集談之儀御跡遠ニ相成候テ者因合薄ラキ候様相考ヘ候ニ付無欠席御出勤被下度不參之方候待ハ最寄ノ個所ヨリ誘引可致事

一 近年鹽價下落石炭并ニ諸道具備賃等高價唯今ノ模様ニテハ勘定難相立依之防長兩濱ヨリ示談有之候通増休談合所申之所

讚州鹽濱今以居リ合兼加之安藝國ノ内生口濱并ニ吉和濱欠席ニ付治定致兼候間先ツ當歲モ是迄ノ通休業取行所申事

但欠席ノ箇所エハ最寄ノ濱所ヨリ所申談事

附リ尙今ノ時勢無據業休指支ノ儀出來候節ハ事實正ニ報知會談ノ上取續方取計可申事

一 防 長 濱 但改曆ニ付當歲十一月ニ相當候間其内ニテ休業取計候事

六ケ月休

一 藝 芴 濱 但右同斷

三ケ月休

一 松 永 濱 但右同斷

三ケ月休

一 備 前 濱 但右同斷

三ケ月休

一 播州赤穂濱 但右同斷

三ケ月休

一 播州上灘目濱 但七ヶ所右同斷

三ケ月休

一 新在家村濱 但右同斷

三ケ月休

一 曾根魚崎新村 但右同斷

三ケ月休

一 豫 州 濱 但右同斷

三ケ月休

一 讚州阪出濱 但右同斷

三ケ月休

一 讚州託間濱 但右同斷

三ケ月休

一 阿 州 濱 但右同斷

三ケ月休

右前書之通諸濱申值治定連印如件

三田尻濱	武村利右衛門	千高濱	高田成美
同	伊藤重三郎	同	高田壽之助
備前濱	三宅治三郎	同	比良田重助
同	野崎武三郎	同	兒玉英助
同	平田清三郎	海老濱	東窪光治郎
阿州濱	書狀	松永濱	水野惣一郎
播磨赤穂濱	書狀	松永濱	岡木脩吉
豫州波止濱	書狀		

當番竹原濱

今 賴 中 井 義 三 圓 治 郎 郎

山口縣熊毛郡平生沖鹽田會所規則

第一章 名稱及位置組織

第一條 本所ハ平生沖鹽田會所ト稱シ熊毛郡水場ニ設置シ鹽田所有者ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 本當沖鹽田ノ現業者及ヒ鹽炭ヲ取扱フ問屋ハ本規則ヲ遵守スルモノトス

第二章 事業ノ目的及取締

第三條 本所ハ製鹽ノ粗製濫造ヲ矯正シ販路ノ擴張ヲ謀ルヲ目的トス

第四條 鹽田持方ハ三ツ割持又ハ換持トシ日持ヲ爲スコトヲ許サス

第五條 鹽田持始メ持止メ期日ニ限り奥鹽田會所ト協議決定スルモノトス

第六條 土井土ヲ洗注シ探鹹水ニ混淆スル事ヲ許サス

但シ肥料ニ爲スハ此限ニアラス

第七條 他所鹽田鹽ヲ取寄セ本所ノ俵仕立ニ偽造シ發賣スル事ヲ許サス

第八條 當會所付問屋ト定メ其營業者ヨリ左、式ノ契約書ヲ徵スルモノトス(本行、点ノ文字ハ三十一年中訂正以下訂正ノ文字ハ各、點ヲ附ス)

契 約 證

今般當鹽田會所改正規則ニ依リ拙者共營業問屋之五戸ヲ以テ會所附屬問屋ト定メラレ候ニ付テハ即チ別冊規則中間屋へ關係之條ヲ確守可致萬一犯則致候節ハ規則第五、十五條ニ依リ御處分相成度尙假令規則ニ掲ケナキ事柄タリトモ本則ノ目

明 治 年 月 日

平生沖鹽田會所附屬問屋

營 業 人 何 條 何 某

頭 取 何 條 何 某 殿

第九條 當鹽田ノ鹽炭賣買ハ當會所付問屋へ取扱ハシメ他所問屋へ托シ賣買ヲ爲ササルモノトス

但シ現業者ノ直キ積出鹽ニ限り本條ヲ適用セス

第十條 鹽炭ノ直組ハ直立人當會所へ出頭シ取締役ノ立會ヲ受ケ其決定ヲ爲スモノトス

第 三 章 役員任期及撰舉

第十一條 當會所ニ左ノ役員及雇員ヲ置キ任期及撰舉方法ヲ定ムル左ノ如シ

第一項 役員

頭取 壹名 任期 三ヶ年

地主總代 貳名 任期 三ヶ年

商議人 貳名 任期 三ヶ年

取締兼會計 壹名 任期 一ヶ年

書記 壹名 任期 一ヶ年

検査人 壹名 任期 一ヶ年

前項役員ノ撰舉ハ指名推撰又ハ投票ヲ以テ地主中又ハ地主外ヨリ撰舉ス其撰舉者ハ鹽田地主ニシテ投票ハ左ノ區別ヲ以テ之ヲ行フ

三戸未満ヲ所有スル地主ハ壹票ノ投票權ヲ有ス

三戸以上六戸未満ヲ所有スル地主ハ貳票ノ投票權ヲ有ス

六戸以上ヲ所有スル地主ハ三票ノ投票權ヲ有ス

直立人 正員 三名 任期壹ヶ年

全 補欠員 三名 任期前任者ノ殘任期間

前項役員ノ撰舉ハ左ノ三ヶ所ニ於テ正員壹名補欠員壹名宛ヲ一般現業者ノ互撰記名投票ノ多數ヲ以テ之レヲ定ム其撰舉ハ會所ニ於テ之ヲ行ヒ頭取地主總代若クハ取締役之ヲ管理シ頭取ニ於テ不適當ノ當撰者ト認定スル時ハ再撰ヲ命スル事ヲ得

拾軒口濱 拾 戸 壹名

御開作濱 拾四 戸 壹名

麻郷濱 拾五戸 壹名

第二項 雇員

支配人兼會所守 壹名 任期 一年

上荷頭 三名 任期 一年

鹽量兼鹽觸印突人 貳名 任期 一年

小使 壹名 任期 一年

前項ノ雇員ハ頭取地主總代ニ於テ協議撰任シ定期地主會ニ報告スルモノトス

第十二條 役員ノ職務權限及ヒ雇員業務ヲ定ムル左ノ如シ

第一項 頭取ハ本則ニ基キ鹽業一切ノ事務ヲ管理スルモノトス

第二項 地主總代ハ頭取ノ協議ニ參與シ時機ニ依リ頭取ノ事務ヲ代理ス

第三項 商議人ハ頭取地主總代ノ諮問ニ答ヘ時機ニ依リ其協議ニ參與スルモノトス

第四項 取締兼會計ハ鹽炭賣買ノ直組ニ立會シ鹽支配及ヒ會計事務ヲ掌リ其他左ノ取締リニ從事ス

- 一本則ニ違背スルモノ無キヤ否ヲ視察スル事
- 一書記支配人ノ取扱事務ヲ監督スル事
- 一各鹽田及ヒ問屋等ノ歩金徴收ヲ精査スル事
- 一書記支配人ノ取扱ヒ各種ノ帳簿ヲ日々調査シ其帳簿ノ大小計ニ檢印ヲ爲ス事
- 一議決ノ豫算ニ基キ出納ヲ嚴密ニ爲ス事
- 一前年ノ收支精算ハ年度後三ヶ月以内ニ結了シ頭取ノ査定ヲ經各地主ヘ交付スル事

但賞罰舉行ノ現狀ヲ併セテ報告スル事

第五項 書記ハ取締兼會計役ヲ補佐シ左ノ帳簿ヲ算査記帳シ且取締役事故アルトキハ之レヲ代理ス

一製鹽戸別帳

一步合算用帳

一賞罰報告記

一會所費受拂帳同内譯帳

一收入金内譯帳

第六項 検査人ハ會所ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

一日々鹽戸ヲ巡回シ製鹽ノ受渡ニ立會シ俵製ノ善惡ヲ検査シ黒鹽其他仕舞方粗惡ニシテ入實不足ト認ムルモノアルトキ

ハ其俵ヲ切放テ其俵數濱名等ヲ會所ヘ届出ル事

一直積出鹽ノ検査ヲナシタル時ハ其俵數石高等ヲ會所ヘ通告シ若シ惡製俵及黒鹽等アル時ハ積出ヲ留置キ會所ヘ急報ス

ル事

一時々海岸ヲ巡回シ上荷其他ノ船舶ヲ視察シ張拔鹽ノ積出等ヲ發見スル時ハ會所ヘ急報スル事

一製鹽ノ仕舞ヲ叮嚀ニ爲シ切欠ナク俵製完美ナル事ヲ勤ムル鹽戸ハ會所ヘ報告スル事

一毎年持始メ持止メノ期日ニ至レハ時々各鹽戸ヲ巡檢シ不正ノ所業アリト認タルトキハ直ニ會所ヘ報告スヘキ事

第七項 直立役ハ鹽炭賣買及物換等ノ直組ヲ爲シ其他左ノ事務ニ從事ス

一總テ鹽業上本則ノ目的ニ違ヒ又ハ犯則スル者ナキヤ否ヲ視察シ時々頭取取締役等ニ申告スル事

一第十條ニ依リ鹽炭賣買物換等ノ直組ヲ爲ス事

第八項 支配人ハ頭取取締ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

一 各問屋ヨリ鹽炭賣買物換等ノ申出アルトキハ直ニ取締役直立人ニ通知スル事

一 鹽賣買ノ直組決定セハ第十九條ニ依リ其問屋ヨリ入金ヲ受取直ニ取締ヘ引渡ス事

一 取締ノ指揮ヲ受ケ印取帳ニ依リ各鹽戶順番ニ鹽ノ觸込ヲ爲ス事

一 鹽ノ滿干及物替等アリテ鹽支配ニ差問ヲ生セシトキハ取締役ヘ申出其順番ノ變更ヲ求ムル事

一 問屋及現業者ヨリ課出スル歩金ヲ會計役ヘ引渡ス事

一 左ノ帳簿ヲ取扱ヒ取締ノ檢印ヲ受ル事

一 直入當座帳

一 直入印取帳

一 鹽觸込帳

一 上荷帳

一 鹽順番帳

第九項 上荷頭ハ會所役員ノ指揮ニ依リ左ノ事務ニ從事ス

一 各上荷船頭ヲ指揮シ客船鹽戶問屋等一般ノ差問ニナラサル様鹽炭其他運漕方一切ノ取締ヲ爲ス事

一 問屋ヨリ鹽手板ノ引渡ヲ受ケ石數船名月日等ヲ詳記シ勘過印ヲ捺入シ荷船ハ本船ヘ積渡ノ手續キラ爲ス事

一 積鹽ヲ叮嚀ニ取扱セ本船ニ對シ不都合ヲナササル様上荷船舶ヲ監督スルコト

第十項 鹽量兼鹽觸印突人ハ會所ノ指揮ヲ受ケ左ノ事ニ從事ス

一 鹽量ハ會所ノ通知ヲ受ケ檢査人間屋一同鹽戶ヘ出張鹽ノ受渡シニ立會シ鹽買主ノ請求ニ應シ鹽ノ量立ヲ爲ス事

一 鹽量立ノ敷物ハ七島莖ヲ用ユヘキ事

一 鹽觸ハ會所ノ發スル切符ヲ以テ支配ノ鹽石ヲ鹽戶ヘ觸込ミ濱名入舛俵數屋ヲ支配人ニ通告スル事

一印突人ハ検査人一同鹽戸ヲ巡回シ検査済ノ鹽俵ハ突印スル事

第十一項 小使ハ會所一切ノ小用ヲ使ス

## 第五章 製鹽販賣法

第十三條 鹽渡方ヲ爲ス時ハ火床積ミ爲シ鹽俵ハ其鹽戸ノ名稱アル燒印ヲ捺スルモノトス

第十四條 鹽受渡ニハ總テ樹ヲ用ヒ衡ヲ用ユヘカラス

但シ鹽量ノ期日ハ二日間ノ事

第十五條 鹽相場ハ時々取口役直立役協議決定ノ上會所内ヘ揭示スヘシ

第十六條 大阪其他ヘ代價先納ヲ以テ翌年ノ製鹽ヲ賣却セントスル時ハ頭取地主總代取締及直立人協議ノ上石數直段等ヲ取

極メ貳名以上ノ委員ヲ撰舉シ其權限ヲ定メ賣先地ヘ派出スル者トス

第十七條 前條委員撰舉壹名ハ會所重役ノ互撰匿名投票ノ多數ヲ以テ定メ尙ホ一名ハ一般現業者互撰記名投票多數ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 前條ニ依リ先納賣ヲ爲シタル代金ハ頭取又ハ地主總代ニ於テ委員ヨリ受取各地主ノ承認ヲ經テ配賦ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 鹽直組決定セハ其代金惣額壹割以上貳割以内ヲ手附金トシテ間屋ヨリ會所ヘ預ケ置クモノトス

第二十條 客船ヘ對シ渡シ鹽ノ順次ハ直組又ハ投錨ニ依ルモノトス

但シ瀛船積又ハ先金賣附鹽ノ渡シ方ハ此限ニ非ス

第二十一條 鹽替ノ物品配賦方ハ番口ニ依リ不公平ナキ様取扱フモノトス

第二十二條 鹽積入ノ上ハ其買主ヘ對シ左式ノ鹽印鑑掲クル事ヲ許サス

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第十章 組合

第 號印鑑

一鹽

但シ正樹

右検査之上

殿船へ

積入候段相違無之候也

明治 年

月 日

山口縣平生

沖鹽田會所

各國仲買商御中

第二十三條

鹽觸込ミ順次ハ休釜ノ鹽戸ヲ除キ番口ニ依リ左式ノ切符ヲ配賦スルモノトス

但シ釜焚ノ始終ハ其當日必ス現業者ヨリ會所へ届出ヲ觸込ミノ差問ナキ様爲スヘキ事

會所  
ノ印

何 菘 何 入

月 日

問 屋 何 屋

何 俵

何 屋 濱

第二十四條

鹽ノ滿于其他ノ事故ニ依リ鹽觸込ミノ番口ニ依リ難キ場合アルトキハ取締及ヒ直立人協議ノ上之レカ變更ヲ爲

スモノトス

第六章 議 會

第二十五條

毎年鹽田持始メ前ニ於テ諸役員ノ定例會ヲ設ケ鹽炭ノ上荷賃其他ノ取極メ及ヒ鹽業上ノ改良ヲ考究スルモノトス

第二十六條

地主會議ハ通常臨時ノ貳種ニ分チ通常會ハ毎年一月之ヲ開キ鹽業白般ノ事ヲ協議シ翌年度ノ會所費歲入出ノ豫

算及ヒ役員雇員ノ報酬給料ヲ議定シ尙前年度決算報告ヲ調査認定スルモノトシ臨時會ハ不時ノ要件出來セシ時之ヲ開設ス

ルモノトス

但シ通常會期日ハ時機ニ依リ變更スル事アルヘシ

第二十七條 議案ハ頭取地主總代又ハ取締ニ於テ起草シ發附スルモノトス

但シ遠隔ノ地主ヘハ一周間前招集狀ト共ニ議案ヲ郵送スルモノトス

第二十八條 地主萬一事故アリ出席スルヲ得サル時ハ代理者ヲ出スモノトス

但シ代理者ハ委任狀ヲ携帶スヘシ

第二十九條 議事ノ決定ハ可否ノ多數ニ依リ之レヲ決ス

但シ本條ニ依リ多數少數ノ區別ハ出席者ノ數ニ係ハラヌ第十一條ノ投票權ノ例ニ依リ之ヲ算ス

## 第七章 經費及徵收法

第三十條 當沖鹽田ハ鹽賣上代價ノ高百分ノ壹四(即チ百圓ニ付一圓四十錢)會所ヘ對シ現業者ヨリ納付スル義務アルモノトス

第三十一條 當會所附問屋ハ鹽賣上ケ代價高千分ノ貳ケ半(即チ百圓ニ付二十五錢)會所ヘ對シ納付スルノ義務アルモノトス

第三十二條 前二ケ條ニ定ムル歩金徵收方ハ壹ケ月分ヲ合計シ翌月三日限り各問屋ヨリ徵收スルモノトス

第三十三條 毎年收支決算ノ上剩餘金ヲ生シタル時ハ通常會ニ於テ處分ヲ議定ス若シ不足ヲ生セシ時ハ地價反別ニ折半シ各

地主ヨリ課出スルモノトス

第三十四條 總テ出納毎年議定スル收支豫算ノ範圍内ニ於テ會計役之ヲ執行シ毎月末收支ヲ決算シ殘餘金アル時ハ頭取又ハ

地主總代ノ内壹名ノ名義ヲ以テ郵便貯金局ヘ預ケ入レ支拂ノ差問アル時之レヲ引出スモノトス

第三十五條 問屋ヨリ受入タル手金ニシテ五拾圓以上ニ滿ツル時ハ柳井商業銀行又ハ平生銀行ヘ當座預ケヲ爲シ賣買實行ノ

上ニ於テ引出其問屋ヘ返却スルモノトス

## 第八章 現業者取締

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第十章 組合

第三十六條 當會所付現業者ハ總テ會所規則ヲ遵守シ製鹽並ニ俵製ノ改良ヲ計ルモノトス

第三十七條 鹽田持初メ期日ハ會所ノ通知ニ依リ執行スルモノトス

第三十八條 鹽炭賣買並ニ物替等ノ直組出來タル時ハ仮令何等ノ事情アルモ故障申出ル事ヲ得ス

第三十九條 會所ヨリ配賦シタル鹽切符又ハ物品共各鹽戸ニ於テ何等ノ事情アルモ之レヲ受ケサル事ヲ得ス

第四十條 鹽買買ノ緩漫ナル時ヲ除クノ外適意ニ賣止メヲナス事ヲ得ス

第四十一條 鹽買買ノ緩漫ナル時當會所付ノ問屋ノ手ヲ經ス直積出ヲ爲サントスルトキハ其石數ヲ會所へ届ケ手板ヲ請求シ本船へ積入ヲ爲シ再ヒ會所へ届出テ検査ヲ受ケ出船セシムルモノトス

但シ歩金ハ届出當日會所揭示ノ價額ニ依リ納付スルモノトス

第四十二條 馬車擔賣等ノ直賣ハ會所へ石高ヲ届出前同様ノ歩金ヲ納ムルモノトス

### 第九章 問屋取締

第四十三條 當會所付ノ問屋ハ他所鹽田ニ關シ鹽炭其他ノ賣買ヲ取扱フ事ヲ許サス

但シ不得止事故アリ本條ニ依リ難キ場合アルトキハ其事故ヲ詳記シタル書面ヲ差出シ當會所ノ認諾ヲ受クヘシ

第四十四條 問屋ハ總テ會所ノ規則ヲ遵守シ製鹽石炭及ヒ米穀其他鹽田需用物品賣買ノ周旋ヲ爲スモノトス

第四十五條 各問屋ハ客船ノ入港アレハ直チニ會所へ届出テ且鹽買入直組結局セシ時ハ第十九條ニ依リ手附金ヲ納メ置クヘシ

但シ鹽買買ノ違約ヲ爲セシ時ハ本條手附金ハ會所へ沒收シ各鹽戸へ分配スヘシ

第四十六條 立鹽買入ハ會所へ届置キ各鹽戸ニ就キ直接直組ヲ爲シ其賣買主及石數直段等ヲ當會所へ申出テ會所ハ直チニ鹽觸込ミ手續ヲ爲スモノトス

### 第十章 上荷取締

第四十七條 當會所付ノ上荷船數ハ五拾四艘ト定メ當鹽田運搬物ノ用ニ充ツ其船主ハ本則ニ從フモノトス

第四十八條 上荷船ハ鹽石三十石石炭六百貫目ヲ以テ壹艘積ト定メ毎年一回會所ニ於テ直立人上荷頭其他慣例ノ立會ヲ求メ

積ミ石試改メヲ爲シ船舶ノ舳艫ヘ其標點ヲ打置クモノトス

第四十九條 上荷頭ハ順街ニ依リ鹽石ノ勘過手板ヲ上荷船ニ渡シ上荷船ハ之レニ依リ運漕ヲ爲スヘシ

但シ手板ニ勘過印ナキモノハ一切運漕スルヲ許サス即チ手板書式左ノ如シ

何斗何舛入俵	何百俵	何屋濱
何九何某殿問屋何屋	計	

第五十條 石炭殻ハ焚釜十日毎ニ各引受ノ上荷ニ於テ積捨ツルモノトス

但シ夜中取除ケ及内海ヘ捨ツル事ヲ許サス

第十一章 賞 罰

第五十一條 各役員及ヒ雇員ニ於テ特別事務ニ勤勉セシモノアル時ハ通常會ノ議ニ依リ相當ノ慰勞金ヲ付與スルモノトス

第五十二條 役員及雇員ニシテ本則ニ背キ不正ノ所業アル事ヲ發覺セシトキハ地主協議ノ上之レヲ改選シ及相當ノ過怠金ヲ

徴スル事アルヘシ

第五十三條 現業者本則ニ違犯セシ者アルトキハ其事ノ輕重ニ依リ壹圓以上五十圓以内ノ過料金ヲ徴シ其最モ重ク鹽田事業

ノ衰頹ヲ招ク等ノ事柄ノル時ハ擯斥シ常會所ノ關係ヲ解キ營利事業ヲ共ニセサルモノトス

但本條中前段ノ處分ハ頭取地主總代取締ノ協議ニ依リ之レヲ執行シ後段ノ處分ハ地主會ニ於テ議決執行スルモノトス

第五十四條 現業者持初メ持止メ期日ノ外鹽業ヲ爲シタル者ハ一日縫壹臺ニ付二十錢以上五十錢以下ノ過料金ヲ徴スルモノトス

第五十五條 會所付問屋タルモノ本則ニ違背セシモノアル時ハ其ノ事ノ輕重ニ依リ五圓以上六十圓以内ノ違約金ヲ徴シ其最モ重キハ年限ヲ定メ當鹽田ニ關シ鹽炭賣買ノ取扱ヲ停止スルモノトス

但シ本條ノ處分ハ頭取地主總代取締ノ協議ニ依リ之レヲ執行ス

第五十六條 先納賣鹽受渡ニ際シ鹽石ノ觸込ミ額ニ不足ヲ生シ又ハ金額ノ引渡シヲ爲シ得サル者アル時ハ會所ニ於テ其補充額ヲ他鹽戶ニテ買求メ相欠代價ヲ該鹽戶ヨリ徴收スル者トス

第五十七條 帳拔鹽(本則ニ違ヒ會所帳簿ニ記入ナキ鹽)ヲ販賣セントスルヲ發覺セシ時ハ其現鹽ヲ會所ヘ沒收シ前條ノ過料金ノ重キニ依リ處分ス問屋ト供謀セシ時ハ兩者ニ對シ之レヲ執行ス

但シ他所鹽ヲ當鹽戶ノ製鹽ニ模造賣買セントスル者モ本條ニ依リ處分ス

第五十八條 總テ違約金過料金等ノ徴收ヲ拒ム者アル時ハ第五十三條後段ニ依リ處分シ又ハ訴訟ニ及フ事アルヘシ

第五十九條 販賣俵鹽ノ舛欠ハ左表ニ依リ過料金ヲ徴シ且欠鹽ノ償却ヲ爲スモノトス

要	價	欠	欠	欠	欠	燒
俵	額	現	倍	鹽過料	俵	印
五斗入	四七入	九合マテリ	一舛以上	五毛	五錢	俵別五厘
二二入	二二入	六合マテリ	七合以上	同上	同上	同上
二二入	二二入	四合マテリ	五合以上	同上	同上	同上
二二入	二二入	一合マテリ	同上	同上	同上	同上
一五入	一四入	一合マテリ	同上	同上	同上	同上
一六入	一五入	一合マテリ	同上	同上	同上	同上
一〇五入	一〇三入	一合マテリ	同上	同上	同上	同上
九〇入	九〇入	四合以上	同上	同上	同上	同上
八〇入	八〇入	三合マテリ	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	二合マテリ	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	一合マテリ	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	三毛	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	三合以上	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	三毛	同上	同上	同上	同上
七〇入	六五入	三合以上	同上	同上	同上	同上

但九樹入ニ限リ俵別ニ合宛増合必スナスヘキ事

欠鹽ハ口打ニシテ別俵ニ仕立ツ可カラス

倍欠鹽ハ別俵ニシテ本俵ノ通り仕立ヘキ事

第六十條 上荷頭上荷船主無手板ノ製鹽ヲ取扱ヒ帳拔鹽ヲ運搬シ其他本則ニ違背セシ時ハ壹圓以上五圓以内ノ過料金ヲ徵收ス其ノ最モ重キモノハ當鹽田ニ關スル上荷ノ業ヲ差止ムル者トス

第六十一條 総テ本則ニ依リ賞罰ヲ執行セシ時ハ其姓名事由ヲ會所門前ニ揭示スルモノトス

第六十二條 帳拔鹽ヲ販賣セントスル者ヲ發見シ會所ヘ密告セシ者アル時ハ之レカ爲メ沒收セシ鹽代價又ハ其過料金半額ヲ賞與トシテ交付スルモノトス

第六十三條 鹽廻シ受取後本船ヘ積入ノ際不正ノ俵包ヲ發見シタルトキハ第五十三條及第六十條ニ依リ處分スルモノトス

## 第十二章

第六十四條 當會所收入支出ノ金錢ハ當所ヲ組織スル鹽田地主ニ於テ其權利義務アルモノトス

第六十五條 鹽田所有權移轉スル時ハ前條ニ定ムル權利義務モ隨テ移轉ス其鹽田ノ地目ヲ變換セシ時ハ共ニ權利義務ハ消滅スルモノトス

但シ所有權ノ移轉地目ノ變換ハ其時々會所ヘ届出ルモノトス

第六十六條 現業者ヨリ徵收スル百分ノ一及ヒ問屋ヨリ徵收スル千分ノ二ケ半ノ歩金ヲ以テ會所ノ諸費ニ充ツルハ勿論ナリト雖若其諸費ニ對シ不足スル事アルモ現業者ヨリ之ヲ追徵セス其殘金ヲ生スルモ現業者ヘ對シ之レヲ割戻サル者トス

第六十七條 第二十條第三十一條ニ依リ歩金徵收ノ算出方ハ問屋ニ於テ取扱タル鹽代價百圓ニ對シ(現業者ヨリ課出スル一圓四十錢ト問屋ヨリ課出スル廿五錢ト合)壹圓六拾五錢ヲ乘シ第三十二條ニ依リ問屋ヨリ徵收シ而シテ現業者ノ課出ニ當ル歩金ハ問屋ニ於テ各鹽戶ニ當リ受領

スルモノトス

第六十八條 役員任期ハ毎年四月一日ヨリ三月三十日限リ會計年度ハ毎年舊十二月晦日限リトス

第六十九條 當鹽田地主ニ於テ他人ト小作約定ヲ爲ス時ハ本則ヲ遵守スヘキ事ヲ併セテ契約スルモノトス

第七十條 會所ニ堅牢ナル金庫ヲ置キ金錢ヲ保管ス

但シ鍵ハ取締役書記合封シテ取締役之ヲ保護シ金錢ノ收支ヲ要スルニ於テ合封者立會開封スルモノトス

第七十一條 鹽觸込ミ及ヒ物品配賦ノ番口ハ毎年ノ始メニ於テ各鹽戸ノ抽籤ヲ以テ之レヲ定ム

但シ本條ニ依リ定メタル番順ハ會所ノ内ヘ掛札ヲナスモノトス

第七十二條 本則ハ明治三十一年四月ヨリ全三十四年三月マテ三ケ年ヲ以テ壹期トス滿期ニ至リ更正又ハ繼續スル事ヲ議決

ス

第七十三條 本則中脱漏ノ件アリ差間ヲ生スル時ハ從來ノ慣行ニ依リ之ヲ執行シ且事實差間ノ條項アルトキハ本則有行期限

中タリトモ地主會ノ決議ニ依リ訂正スル事アルヘシ

右當平生沖鹽田會所規則ヲ議定スル處相違無之依テ各自捺印スルモノ也

明治二十八年三月二十五日

平生沖鹽田地主

阿武郡萩町

熊毛郡岩田村 萬吉

熊毛郡岩田村

國光郡佐

全郡岩田村

國光郡雅一

全郡麻里府村

再々復讐あり、在官者田又へ立廻り其復讐は本朝と雖も...

第十節 常陸守 常陸守買へ常陸守田領へ開墾へ東遊へ...

再々復讐あり、在官者田又へ立廻り其復讐は本朝と雖も...

水田永藏

全郡平生村

小野本九一

全郡平生村

弘津亭太郎

全郡麻郷村

中村芳平

阿武郡萩町

大岡與右衛門

全郡全町

菊屋剛十郎

熊毛郡光井村

市川精造

玖珂郡柳井町

目神田友二

全郡曾根村

布浦武助

全郡全村

藤井永太郎

平生奥濱會所規則

第一章 名稱及位置組織

第一條 本所ハ平生奥濱鹽田會所ト稱シ熊毛郡平生村第七百八十四番屋敷ニ設置シ鹽田所有者ヲ以テ組織ス

第二章 事業ノ目的及取締

第二條 本所ハ鹽務ノ監督ヲ主トシ粗製濫造ヲ矯正シ販路ノ擴張ヲ圖ルヲ目的トス

第三條 當奥鹽田ニ關スル(現業者)(問屋)(上荷)(濱子)ハ本規則ヲ遵守スルモノトス

第四條 鹽田持方ハ三ツ割持又ハ換持トシ固ク日持ヲ爲ス事ヲ許サス

第五條 鹽田持始メ持止ヲ期日ニ限リ沖鹽田會所ト協議スルモノトス

第六條 土井土ヲ洗注シ採鹹水ニ混淆スルコトヲ許サス

但シ肥料ニ爲スハ此限ニアラス

第七條 他所製鹽ヲ取寄セ本所ノ俵仕立ニ偽造シ發賣スル事ヲ許サス

第八條 毎年三月現業者鹽炭ノ直立ヲ取扱ハスル爲メ二名乃至三名ノ惣代ヲ撰定シ第一號書式ニ依リ濱子ハ惣濱子取締ノ爲

メ二名乃至三名ノ惣代ヲ撰定シ第二號書式ニ依リ届出ルモノトス

但シ直立人撰舉ハ理事長撰舉係リ長トナリ濱子總代撰舉ハ直立人撰舉掛リ長トナリ執行ス最モ得票多數ナルモ時期ニ依

リ再撰ヲ命スル事アルヘシ撰舉濟ノ上ハ各撰舉人ヨリ委任狀附與セシムルモノトス

第九條 會所附屬問屋ヲ定メ其營業者ヨリ第三號書式ニヨリ契約書ヲ徵スルモノトス

但シ附屬問屋ノ許否ハ重役會ニ於テ之ヲ決定ス

第十條 當鹽田ノ鹽炭賣買ハ當會所附屬ノ問屋ヘ取扱ハシメ他所問屋ヘ託シ賣買ヲ爲サルモノトス

但シ賣鹽緩漫ノ時直積出又ハ立鹽石炭直賣買等本條ヲ適用セス

第十一條 鹽炭ノ直組ハ直立人當會所へ出頭シ重役ノ立會ヲ受ケ決定スルモノトス

第三章 役員任期及撰舉

第十二條 當會所ニ左ノ役員及雇員ヲ置キ任期並ニ撰舉方法ヲ定ムル左ノ如シ

第一項 役員

理事長	一名	任期	一ケ年
理事	三名	任期	一ケ年
名譽顧問	一名	任期	一ケ年

前項役員ハ無記名投票又ハ指名推撰ヲ以テ撰舉シ名譽顧問ハ指名推薦トナスモノトス尙滿期再撰スルモ妨ナシ

但シ被撰人ハ地主ニ限ルモノトス投票多數又ハ指名推撰ヲ以テ撰定セラレタルモノハ疾病ノ外猥リニ辞退スルヲ許サス

第二項 雇員

簿記掛兼會計	一名	任期	一ケ年
檢査人	一名	任期	一ケ年
上荷頭	一名	任期	一ケ年
鹽量	一名	任期	一ケ年
鹽觸	一名	任期	一ケ年
印突人	一名	任期	一ケ年
小使兼會所守	一名	任期	一ケ年

前項雇員ハ理事長理事協議ノ上撰用スルモノトス

第十三條 理事長ハ本則ニ基キ鹽務ヲ監督シ事務ヲ管理スルモノトス

第十四條 理事ハ理事長ノ協議ニ參與シ理事長事故アルトキハ職務ヲ所辨スルモノトス

但理事長理事ノ執行事務ハ渾テ連帶責任トス

第十五條 名譽顧問ハ理事長ノ求ニ依リ重役會ニ參與シ其事項ヲ協議翼讚スルモノトス

第十六條 簿記掛兼會計ハ左ノ諸項ニ從ヒ勤仕スルモノトス

一 直入印取帳及觸込順番帳ノ前ヲ以テ日々鹽仕配ヲ執行スルモノトス

一 會所費會計ヲ掌リ計算表ヲ調製シ理事長ヘ差出スヘシ

但支拂金ハ理事長ノ指示ニ依リ支拂フヘシ

一 會所諸器具ヲ保護シ且ツ會所日々ノ事務ヲ日記錄ヘ詳記スヘシ

一 歩金ハ直入印取帳及手板臺帳ノ前ヲ以テ諸問屋積取代價ヲ調査シ取縮ムヘシ

一 濱方直積出鹽ハ届出ノ石數ト勘過帳ト引合セ時々ノ相場ニ比準シ金高ヲ定メ制規ニ依リ取立ツヘシ

一 歩金其他收入金ノ剩餘ハ其帳簿ヘ鹽石數代價其外理由ヲ詳記シ理事長ヘ交附スヘシ

一 立釜鹽戸ノ毎日煎出ハ檢査人ノ報告ニ應シ製鹽戸別煎出帳ヘ各濱座分ヲ以テ記入スヘシ

一 算査記帳スル諸帳簿ハ左ノ如シ

製鹽戸別煎出帳

觸込順番帳

歩金算用帳

什器目錄帳

賞罰報告帳

日記帳

會所費受拂帳

直入印取控帳

鹽手板台帳

第十七條 検査人ハ會所ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

- 一 日々鹽戸ヲ巡回シ製鹽ノ受渡ニ立會シ製鹽ノ善惡ヲ検査シ黑鹽其他仕舞方粗惡ニシテ入榊不足ト認ムルモノアルトキハ其俵ヲ切放チ其俵數濱名等ヲ會所ヘ届ケ出ル事

但シ直積出鹽モ同一ノ取扱ヲ爲ス事

- 一 製鹽受渡ノ際買主ノ求ニ應ジ鹽量人ヲシテ鹽ノ量立ヲ爲サシメ若シ切レ欠俵アルトキハ之レヲ會所ヘ届ケ出ル事
- 一 直積出鹽ノ検査ヲ爲シタルトキハ其俵數石高等ヲ會所ヘ通告シ若シ惡製俵及黑鹽等アル時ハ積出ヲ留置會所ヘ急報スル事

一 毎日煎出ノ検査ヲナシ會所ヘ報告スル事

一 時々海岸ヲ巡回シ上荷其他ノ船舶ヲ視察シ帳抜鹽ノ積出等發見スルトキハ會所ヘ急報スル事

一 製鹽仕舞ヲ町寧ニ爲シ切欠ナク俵製完美ナルコトヲ勤ムル鹽戸ハ會所ヘ報告スル事

第十八條 上荷頭ハ左ノ諸項ニ従事スルモノトス

一 上荷船ヲ指揮シ一搬ノ差間ニナラサル様注意シ鹽手板持參スルトキハ石數船名及問屋名月日等ヲ第五號書式ニヨリ詳記シ勘過印ヲ捺入レ上荷ノ者ヘ渡スヘシ上荷ノ者ハ勘過手板ノ順番ヲ以テ本船ヘ積渡ノ手續ヲ爲ス事

一 積鹽ヲ町寧ニ取扱ハセ本船ヘ對シ不都合ヲ生セサル様上荷船舶ヲ監督スル事

一 石炭焚殻ハ三ヶ月毎ニ悉皆除ケ決シテ内海ヘ捨テ又ハ夜中取除等ノ不都合ヲ取締ルヘシ

一 入養土粘土其他濱方ノ差間ニナラサル様採掘シ運漕セシムヘシ

第十九條 鹽量鹽觸印突人ハ會所ノ指揮ヲ受ケ左ノ事ニ從事ス

一 鹽量ハ會所ノ通知ヲ受ケ検査人間屋一同鹽戸出張シ鹽ノ受渡ニ立會シ鹽買主ノ請求ニ應シ鹽ノ量立ヲ爲ス事

但シ鹽量立ノ敷物ハ七島莖ヲ用ユヘキ事

一 鹽觸ハ會所ノ發スル切符ヲ以テ支配ノ鹽石ヲ鹽戸へ觸込ミ濱名入桝俵數等ヲ簿記掛へ通告スル事

一 印突人ハ検査人一同鹽戸へ巡回シ検査濟ノ鹽俵へ突印スル事

第二十條 小使兼會所守ハ會所一切ノ小用ヲ辨シ會所内外ヲ守衛スルモノトス

第二十一條 總テ重役及雇員ハ任期滿ルト雖後任者へ引繼キヲ了セサル期間ハ前任ノ職務ニ從フ義務アルモノトス尙任期滿

了後一ケ年ヲ經過スルニアラサレハ其責任消滅セス

第五章 役員給料及旅費日當

第二十二條 役員及雇員ノ給料ヲ定ムル左ノ如シ

理事 長

理 事

名譽顧問

簿記掛兼會計

検査人

上 荷 頭

鹽 手 量

鹽 入 觸

印 突

小使兼會所守

旅費一里誥(重役金拾錢 雇員金八錢)宿泊料(重役金七十五錢 雇員金五十錢)

但シ三里未滿ハ宿泊料ヲ給セス

第六章 現業者及製鹽販賣取締

第二十三條 鹽炭賣買ハ直立人從事シ價格諸般ヲ決定シ會所員ノ立會ヲ請ヒ開置ヲ受クヘシ

但シ或場合ニ於テ不時ノ濫賣等ヲナシ鹽田ノ消長ニ關スル所爲アリト認ルトキハ監督上賣買ヲ停止スル事アルヘシ

第二十四條 渾テ直立人ノ取扱事務ハ理事長ノ許諾ヲ得ルニアラサレハ執行ヲ許サス

附リ監督上必要ト認ルトキハ理事長理事ハ何時ニテモ諸帳簿ヲ檢閱スル事ヲ得

第二十五條 粗製濫造ノ製鹽ハ堅ク販賣ヲ禁ス

但不時檢査トシテ俄然重役中巡視スルトキハ仮令檢査人ノ手續之後ト雖之ヲ拒絕スルヲ得ス

第二十六條 鹽ノ渡方ヲ爲ストキハ火床積ニ爲シ鹽俵ハ其鹽戸ノ名稱アル燒印ヲ押入スルモノトス

但シ賣渡ニハ總テ樹ヲ用ヒ衡ヲ用ユヘカラス

第二十七條 鹽相場ハ時々直立人ヨリ役員ノ立會ヲ請ヒ價格決定ノ上會所内ヘ揭示スヘシ

第二十八條 鹽直組決定セハ其代金總額ノ一割ヲ手付金トシテ直立人ハ問屋ヨリ受取理事長ヘ預ケ置モノトス

第二十九條 客船ヘ對シ鹽渡方ノ順次ハ直組ノ順番ニヨルモノトス

但シ瀛船積又ハ先金賣付鹽ノ渡方ハ此限ニアラス

第三十條 鹽替ノ物品配賦方ハ番口ニヨリ不公平ナキ様取扱フモノトス

第三十一條 鹽觸込方法ハ掛札ノ順次ニヨリ醒釜ノ濱ハ觸除キ第四號書式ニヨリ觸込切符ヘハ鹽石直段或ハ物替等其區別ヲ

詳記スヘシ

但釜焚始メ焚終リ共其當日本所へ必ス届出ヘシ届出ヲ遅延スルトキハ觸込ミヲ爲サルモノトス

第三十二條 賣鹽積入ノ際ハ第五號ノ勘過手板へ捺印ヲ請ヒ積入滿了ノトキハ第六號書式ノ鹽印鑑ヲ請ヒ受ルモノトス

但現樹ノ符合セサル不正ノ石高ヲ印鑑ニ掲クルコトヲ許サス

第三十三條 汐ノ満干其他ノ事故ニヨリ鹽觸込ノ番口ニヨリ難キ等ノ場合アルトキハ會所及直立人協議ノ上之カ變更ヲナス

モノトス

第三十四條 會所ヨリ配賦シタル鹽切符ハ各鹽戸ニ於テ何等ノ事情アルモ之ヲ受ケサルコトヲ得ス賣付鹽ハ渾テ戸別煎出限

ヲ觸方スヘシ

但シ賣鹽緩漫或ハ正當ノ理由アル申立ノ際豫メ期限ヲ定メ賣止願爲シ會所ノ許諾ヲ受ケタル鹽戸ハ觸込ヲ中止スルモノ

トス左モ前賣鹽石ハ負擔タルヘシ

第三十五條 融込鹽ナキニ際シ現業人自己ノ鹽積出スルトキハ其石數及ヒ賣先ヲ會所へ届出手板印鑑ヲ請フモノトス尙仕舞

置鹽モ其都度々々届出積出ノトキハ同一ノ手續ヲ了シ其際検査人ノ検査ヲ受クヘシ

但シ歩金ハ一般賣鹽同様會所へ納付スルモノトス

第三十六條 馬車擔賣等ノ直賣ハ會所へ石高ヲ届出前條同様ノ歩金ヲ納ムルモノトス

第三十七條 製鹽營業上同業者申合規約ヲ製定シ毎年三月上旬届出理事長ノ認可ヲ受ケ執行スヘシ

但申合規約ノ制定ハ豫メ重役ノ協議ヲ要スルモノトス

第三十八條 製鹽ヲ私ニ賣捌キヲ帳拔鹽ト稱ス將來嚴重ニ禁止スヘシ

### 第七章 問屋 取締

第三十九條 當會所付ノ問屋ハ他所鹽田ニ關シ炭鹽其他ノ賣買ヲ取扱フコトヲ許サス

但不得止事故アリ本條ニ據リ難キ場合アルトキハ其理由ヲ詳記シタル書面ヲ差出シ當會所ノ認諾ヲ受クヘシ

第四十條 問屋ハ総テ會所ノ規則及現業者申合規約ヲ遵守シ鹽炭及ヒ米穀其他鹽田需要品賣買ノ周旋ヲナスモノトス  
 第四十一條 各問屋ハ客船ノ入港アルトキハ直ニ會所ヘ届出且鹽買入直組結局セントキハ第二十六條ニヨリ手付金ヲ預ケ入ルヘシ

但鹽賣買ノ違約ヲナシタルトキハ本條ノ手付金ハ沒收シ賣込ノ權利アル各戸ノ等級ニヨリ分配スルモノトス

第四十二條 立鹽及舞仕置ノ鹽買入ハ會所ヘ届置キ各鹽戸ニ就キ直接直組ヲナシ其賣買主及石數直段等ヲ當會所ヘ申出賣所ハ直チニ鹽觸込ミ手續ヲナスモノトス

第四十三條 付屬諸問屋ノ鹽田ニ關スル諸帳簿及一切ノ書類ハ何時ニテモ關閱スルコトアルヘシ

## 第八章 上 荷 取 締

第四十四條 當會所付ノ上荷數 艘ト定メ當鹽田運搬物ノ用ニ充ツ其船主ハ本則ニ從フモノトス

一 上荷船ハ鹽石三十石石炭ハ六百貫目ヲ以テ一艘積ト定ム毎年一回會所近海ニ於テ直立人上荷頭其他慣例ノ立會ヲ求メ石數改ヲナシ船舶ノ舳艫ヘ其標點ヲ打置クモノトス

一 上荷頭ハ順番ニ依リ鹽石ノ勘過手板ヲ上荷船ヘ渡シ上荷船之ニ依リ運漕ヲナスヘシ

但シ手板ニ勘過印ナキモノハ一切運漕スルコトヲ許サス

一 石炭燒殻ハ焚釜十日毎ニ各引受ノ上荷ニ於テ已前官許ヲ得タル佐賀村宇田各海岸ヘ積捨ツヘシ  
 但夜中取除及内海ヘ捨ツルコトヲ許サス

## 第九章 濱 子 取 締

第四十五條 濱子ハ毎年三月中惣濱子取締ノ爲メ二名乃至三名ノ総代ヲ選舉シ會所届出ヲ怠ルヘカラス

一 濱子惣代ハ濱子ヲ代表シテ會所ノ指揮ニ從フモノトス

一 濱子惣代惣濱子ハ會所規則及鹽業者申合規約ヲ固ク遵守スヘキモノトス

第十章 議 會

第四十六條 毎月重役會ヲ開キ改良ノ方法業務ノ打合せ及ヒ雇員給料等ヲ協定スルモノトス

第四十七條 地主會議ハ通常、臨時ノ二種ニ分テ通常會ハ毎年三月之ヲ開キ理事長ヨリ鹽業百般ノ事務及前年度ノ決算報告シ尙重役ノ選舉ヲ行フモノトス臨時會ハ不時ノ要件出來セシトキ若クハ地主三分ノ一以上ヨリ要求アルトキハ之ヲ開設スルモノトス最モ通常會期日ハ時機ニヨリ變更スルコトアルヘシ

但理事長理事當選決定ノ上ハ第七號書式ニヨリ議長ヨリ當選狀ヲ付與スルモノトス

第四十八條 議案ハ理事長ニ於テ起草シ發付スルモノトス

但理事長事務アルトキハ理事之ヲ處辦スルモノトス

第四十九條 地主萬一事故アリ出席スルヲ得サル時ハ代理者ヲ出スモノトス最モ代理者ハ必ス委任狀ヲ携帶スルモノトス

但欠席ヲ口實トシテ後日決議書へ捺印ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

第五十條 議事ノ決定ハ可否ノ多數ニヨリ之ヲ決シ同數ニヨリ之ヲ決シ同數ナルトキハ議長ノ可否ニ依テ決ス

第五十一條 會議ハ三分ノ一以上ニ滿タサレハ開會スルコトヲ得ス

第十一章 經費及徵收法

第五十二條 當奥鹽田ハ鹽賣上代價高百分ノ一四(即百圓ニ付壹圓四十錢)會所へ對シ現業者ヨリ納付スル義務アルモノトス

第五十三條 當會所付問屋ハ鹽賣上代價千分ノ二ケ半(即百圓ニ付二十五錢)會所へ對シ納付スル義務アルモノトス

第五十四條 前二ケ條ニ定ムル歩金徵收方ハ一ケ月分ヲ合計シ翌月三日限り各問屋及現業者ヨリ徵收スルモノトス

第五十五條 本所諸費「經常」「臨時」ハ取立歩金ヲ以テ之ヲ支拂毎年收支決算上剩餘金ヲ生シタルトキハ通常總會ニ於テ處分

ヲ議定ス若シ不足ヲ生セシトキハ地價反別ニ折半シ各地主ヨリ課出スルモノトス

但シ收支處分確定ノ上ハ各地主ノ承諾印ヲ請フヘシ

第五十六條 渾テ出納ハ毎年議定スル收支見込書ノ範圍内ニ於テ會計役之ヲ執行シ毎月末收支ヲ決算シ殘餘金アルトキハ理事長ヘ交付シ平生銀行ヘ預ケ入レ支拂差問アルトキハ之ヲ引出スモノトス

第五十七條 問屋ヨリ預ケ入レヲナシタル手付金ハ理事長ヘ交付シ平生銀行ヘ預ケ入レ賣買實行ノ上ニ於テ引出シ切手ヲ以テ其問屋ヘ返却スルモノトス

但シ本條ノ預ケ金利子ハ年末計算ノ上本所ノ雜收入ヘ繰リ入ル、モノトス

## 第十二章 賞 罰

第五十八條 理事長理事滿一ケ年精勤スルモノハ理事長ハ金拾圓ヨリ少カラス理事ハ金五圓ヨリ少カラサル金額若クハ物品ヲ以テ慰勞トシテ付與スルコトアルヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ地主協議ノ上執行スヘシ

第五十九條 諸雇員ノ者特別ノ精勤アリト認ムルトキハ重役ノ協議ヲ以テ賞與ヲ付與スル事アルヘシ

第六十條 上荷其他鹽務ニ從事シ特別ノ勞働功績等アルトキハ重役ノ協議ヲ以テ賞與ヲ付與シ或ハ過失等アルトキハ譴責スヘシ

第六十一條 役員及 雇員ニシテ本則ニ背キ不正ノ所業アルコトヲ發覺セシトキハ地主協議ノ上之ヲ改選シ及ヒ相當ノ過怠金ヲ徵スルコトアルヘシ

第六十二條 現業者本則ニ違犯セシ者アルトキハ其事ノ輕重ニ依リテ金壹圓以上五十圓以内ノ過料金ヲ徵シ其最モ重ク鹽田事業ノ衰頹ヲ招ク等ノ事柄アルトキハ濱付シテ當會所ノ關係ヲ解キ營利事業ヲ共ニセサルモノトス

但シ本條中前段ノ處分ハ重役ノ協議ニ依リ是ヲ執行シ後段ノ處分ハ地主會ニ於テ決議執行スルモノトス

第六十三條 會所付問屋タルモノ本則ニ違背セルモノアルトキハ其事ノ輕重ニヨリ五圓以上六十圓以内ノ違約金ヲ徵シ其最モ重キハ年限ヲ定メ當鹽田ニ關シ鹽販賣買ノ取扱ヒヲ停止スルモノトス



九舛入ニ限リ俵別ニ合宛増合必スナスヘキコト

但シ 欠鹽ハ口打ニシテ別俵ニ仕立ツ可カラス

倍欠鹽ハ別俵ニシテ本俵ノ通り仕立ツ可キコト

第七十條 渾テ本則ニヨリ賞罰ヲ執行セシトキハ其姓名事由ヲ會所内ニ揭示スルモノトス

第七十一條 帳拔鹽ヲ販賣セントスルモノヲ發見シ會所ヘ密告セシモノアルトキハ之カタメ沒收セシ鹽代價又ハ其過料金半

額ヲ賞與トシテ交付スルモノトス

第十一章 書式

第七十二條 本所及ヒ役員ノ印章並ニ本則中ノ書式左ノ如シ

四 歩 平生奥濱  
會所簿記  
掛ノ印

五 歩 平生奥濱  
會所理  
事之印

六 歩 平生奥濱  
會所理事  
長之印

一 寸 平生奥濱  
會所番外  
積出之印

一 寸 平生奥濱  
鹽田會  
所之印

一 寸 山口縣周防國  
熊毛郡平生  
平生奥濱鹽  
田會所之印

第一號書式

第

御 届

何

某

右之者明治何年度ニ於テ鹽炭直立其他ノ鹽業擔當ノ爲メ現業者總代ニ推選致シ候ニ付テハ會所規則ヲ遵守シ重役ノ指揮ニ從ヒ事務執行致サセ度候間御聞置被成下度此段及御届候也

與濱現業人

何 某 印

年 月 日

與濱會所理事長何某殿

第二號書式

御 届

何

某

右之者明治何年度ニ於テ惣濱子取締ノ爲メ總代トシテ推選致シ候ニ付テハ會所規則並ニ現業者申合セ規約ヲ遵守シ服務致サセ度候間御聞置被成下度此段御届申上候也

與濱々々子

何 某 印

年 月 日

與濱會所御中

契 約 書

拙者義今般明治何年何月ヨリ何年何月マテ滿一ケ年間貴會所附屬問屋ト定メラレ候ニ付テハ即チ會所規則並現業者申合

規約確守可致萬一犯則致シ候節ハ規則第六十二條ニヨリ御處分相成度尙仮令規則ニ掲ケナキ事柄タリトモ本則ノ目的ニ違ヒ候取扱ヒ致シ不申及拙者ト現業者間ノ貸借ニ關スル義ニ付テハ一切貴所へ申出テ間敷依テ契約書差入置候處如件

平生奥濱鹽田會所附屬間屋

營業人

何條何某

理事長何條何某殿

年月日

第何號何濱鹽觸付切符

回漕店

何某

一鹽何石

何々現賣何々代鹽直段何圓俵何入

月日

會所

第何號何濱鹽觸付切符

回漕店

何某

一鹽何石

何々現品賣一何々代鹽

直段何圓

俵何入

月日

會所印

第五號書式

勸過印	何百何拾俵	何濱
何斗何舛入	何百何拾俵	何濱
月日	何百何拾俵	何濱
船印シ	何九何某殿	何某
	回漕店	何某

第四號書式

第二回水産博覽會賞狀

山口縣熊毛郡平生町

食鹽 平生與會所

夙ニ鹽戶ノ糾合シテ團體ヲ設立シ斯業百  
般ノ事ヲ完整シ其改善發達ニ怠ラス今回  
出陳セル食鹽ハ品質良好ニシテ製額亦多  
シ以テ平素業務ニ勵精スルノ厚キヲ見ル

壹場三郎  
正八位 塚本道遠  
正七位 沓川温  
正七位 奥健藏

有 功 審 査 官  
審 査 部 長 從 三 位 勳 二 等 田 中 芳 男  
審 査 官 長 從 三 位 勳 二 等 村 田 保

前記ノ薦告領シ茲ニ賞牌ヲ授與ス

明治三十年十一月十二日

總裁大勳位功二級 彰 仁 親 王

第 七 號 書 式

印 鑑

甲第	號
理事長	簿記掛
檢 印	檢 印

回 漕 店

何 某

一鹽何萬俵

但シ正榭何舛入

右檢査ノ上

候段相違無之候也

山口縣周防國平生

平生鹽田會所印

第八號書式

當撰狀

平生與濱會所理事長(理事)本所鹽田地主  
惣會ニ於テ投票多數ニヨリ貴殿其任ニ當  
撰相成候間此段及御通知候也

平生與會所地主總會

年月日 議長 何條何某

何條何某殿

第九號書式

請書

平生與濱會所理事長理事拙者當撰ノ旨御  
通知相成此段御請致候也

平生與會所地主總會

年月日 何條何某

議長 何條何某

第十號書式

鹽田買受(讓受)届

一鹽田何町何反歩

地價何百何拾圓

右ハ何國何郡何某所有之鹽田今般拙者買受(讓受)ヲ爲シ鹽田組合ニ加盟スル處相違無之就テハ會所規則等堅ク遵守可致候  
依テ保證人相立及御届候間臺帳御記名被成下度候也

何國何郡何村第何番何字々

何國何郡何村何番地

買(讓)受人

同

保 證 人

何 某

理 事 長 宛

第十四章 雜 則

第七十三條 當會所收支ノ金錢ハ當會所ヲ組織スル鹽田地主ニ於テ其權利義務アルモノトス

第七十四條 鹽田所有權移轉スルトキハ前條ニ定ムル權利義務ハ隨テ移轉ス其鹽田ノ地目變換セシトキハ共ニ權利義務ハ消滅スルモノトス

減スルモノトス

但シ所有權ノ移轉地目ノ變換ハ其當時會所ヘ届出ツルモノトス

第七十五條 現業者ヨリ徵收スル百分ノ一四及問屋ヨリ徵收スル千分ノ二ケ半ノ歩金ヲ以テ會所費ニ充ツルハ勿論ナリト雖

若シ其諸費ニ對シ不足スルコトアルモ現業者ヨリ之ヲ追徵セス其殘餘ヲ生スルモ現業者ヘ對シ之ヲ割戻サルモノトス

第七十六條 第五十一條第五十二條ニヨリ歩金徵收ノ算出方ハ問屋ニ於テ鹽代金百圓ニ對シ(現業者ヨリ課出スル壹圓四十錢ト問屋ヨリ課出スル二十五錢ト合シタル額)

一圓六十五錢ヲ乘シ第五十三條ニヨリ問屋ヨリ徵收シ而シテ現業者ノ課出ニ當ル歩合ハ問屋ニ於テ各鹽戸ニ當リ受領スル

モノトス

第七十七條 會所ハ猥リニ借金スヘカラサルハ勿論ト雖經費ニ不足ヲ生スルトキハ理事長負債主トナリ理事ヲ以テ保證人ト

ス

但シ本條ノ場合ニ於テハ次期議會ニ於テ事後承諾ヲ得ルモノトス

第七十八條 所有ノ鹽田ヲ他人ヘ賣渡シ又ハ讓渡シタルトキハ買受人又ハ讓受人ヨリ第八號書式ニ依リ届書取附必ス會所ヘ

届出スヘシ

第七十九條 當鹽田地主ニ於テ他人ト小作約定ヲナストキハ本則ヲ遵守スヘキ事ヲ併テ契約スルモノトス

第八十條 渾テ鹽加調ヲ以テ小作預ヲ爲シタルトキハ毎年壹月中濱名氏名及鹽石納期等詳細ニ届出ヘシ該加調鹽觸方ハ地主

ヨリ一週間以内ニ會所ヘ届出會所順番ニ從ヒ受方スルモノトス

第八十一條 鹽觸込及物品配賦ノ番口ハ毎年ノ始メニ於テ各鹽戸ノ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

但シ本條ニヨリ定ナル順番ハ會所内ヘ掛札ヲ爲スモノトス

第八十二條 此諸章中ヘ脱漏ノ件アリテ差閤ヲ生スルトキハ重役會ヲ開キテ執行スルモノトス

但シ時々決定ノ件々ハ渾テ通知書或ハ揭示ヲ以テ地主現業者其他一般ヘ報告スルモノトス

第八十三條 聯合商舎負債ニ付支主方兩主任生野源三 山根爲十郎ヨリ請求ニヨリ本年已往(明治二十八年)拾ケ年間一ケ年間金五十圓宛

支出スルモノトス

第八十四條 本則ハ施行中ト雖差支ヲ生スルトキハ地主惣會ノ決議ヲ以テ更正スルコトヲ得ルモノトス

第八十五條 奥濱鹽田ヘ關係ノ入川毎年上荷四十艘宛掘浚ヘヲナスモノトス

但シ三十三年度分掘浚ヘ個所(中川裾四番濱角上荷船拾艘)西川宇佐木濱ヨリ新市思案橋マテ上荷船三十艘堀川中濱ヨリ

橋本迄上荷船五艘野島川裾住吉濱ヨリ田福屋迄上荷船五艘

右決定候處相違無之依テ各自連署捺印スルモノ也

井 上 信 厚

森 本 倉 四 郎

弘 津 享 太 郎

弘 津 佐 一

申合決議書

生野源三氏ヨリ提出ノ左ノ建言ヲ採用シ當明治三十三年度丈ケ掘浚スル事

一 奥濱鹽田ノ内掘浚個所

中川裾(字四番濱角)上荷船拾艘

西川(字佐木濱ヨリ新市思案橋迄)全三十艘

堀川(字中濱ヨリ橋本マテ)全五艘

野島川裾(字住吉濱ヨリ田福屋濱迄)全五艘

井	皿	原	上	平	川	武	山	國	山	小	生	岩
上	田	田	田	田	崎	一	田	光	根	川	野	立
岩	田	田	久	龜	勘	義	篤	雅	篤	軍	源	伴
太	千	知	松	松	助	三	十	一	郎	吉	三	藏
郎	藏	定	松	松	助	郎	郎	郎	郎	吉	三	藏

右決議候處相違無之候也

明治三十三年六月地主總會ニ於テ重役左之通常選セリ

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第十章 組合

理事長

井上信厚

井上信厚	小田半輔	弘津享太郎	弘津佐一	井上岩太郎	皿田千藏	原田知定	上田久松	平田龜松	川崎勘助	武代儀三郎	山田雅一	國光	山根篤十郎	小川軍吉	生野源三	岩立伴藏
------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	----	-------	------	------	------

第十一章 試驗

理事 井上岩太郎  
 同 生野源三  
 同 弘津佐一  
 名譽顧問 弘津享太郎

右一章該當記事ナシ

第十二章 輸出入及試賣

一 支那、朝鮮、浦鹽方面へノ鹽ノ輸出及試賣 韓國釜山開港以來本郡麻里府村人ハ率先渡韓貿易ニ從事シタルヲ以テ平生濱製鹽モ又同村人ニヨリ先ツ該港ニ販賣ヲ試ミ尋テ元山、仁川、木浦、城津等ノ各港ニ及ホシ漸次販路ヲ擴張シ明治二十七八年ノ頃ハ年々五、六千石ヲ輸出スルニ至リシモ其後讚備地方ノ製鹽續々輸送セラレタルト地方ニ於ケル韓國航海ノ船舶欠乏ヲ告タルトニヨリ近年殆ント輸出ノ途ヲ拒絕シタリ蓋シ當地方製鹽ハ元來粗製濫造ノ弊アリ品質極メテ劣等ナリシヨリ終ニ該市場ニ壓到セラレタルモノナラン其他ノ地方ハ輸出入若クハ試賣ヲナシタル形跡ナシ

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

右三章該當記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價、時價、小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較 (一反當)

區	別			鹽田ノ地價	全時價	全小作料
	下	中	上			
柳井濱	下	中	上	一八、七〇〇	一八七、〇〇〇	一四、〇〇〇
	下	中	上	一五、六〇〇	一五六、〇〇〇	一二、〇〇〇
	下	中	上	一〇、八〇〇	一一〇、〇〇〇	一〇、五〇〇
平生奥濱	下	中	上	一三、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	下	中	上	一六、五〇〇	一三五、〇〇〇	七、〇〇〇
	下	中	上	一二、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇
平生沖濱	下	中	上	二七、六五〇	一五五、〇〇〇	二五、〇〇〇
	下	中	上	二三、三〇〇	一〇四、〇〇〇	二〇、〇〇〇
	下	中	上	一四、五〇〇	六三、六〇〇	一七、〇〇〇

全上比較田畑ノ地價等 (一反當)

區	別			田ノ地價	同時價	同小作料	畑ノ地價	同時價	同小作料
	下	中	上						
柳井町	下	中	上	五六、八〇〇	三五〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	一二、六〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	下	中	上	四三、二〇〇	二八〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一一、一〇〇	一五〇、〇〇〇	七、五〇〇
	下	中	上	二八、一二〇	二三〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	九、九〇〇	一〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇
平生町	下	中	上	五四、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、二〇〇	一五〇、〇〇〇	六、〇〇〇
	下	中	上	三二、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三、四七〇	一〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇
	下	中	上	八、五〇〇	一五〇、〇〇〇	七、五〇〇	八、八二〇	七五、〇〇〇	二、〇〇〇

(八) 三田尻鹽務局平生出張所ノ部 第十七章 鹽田ノ地價等

